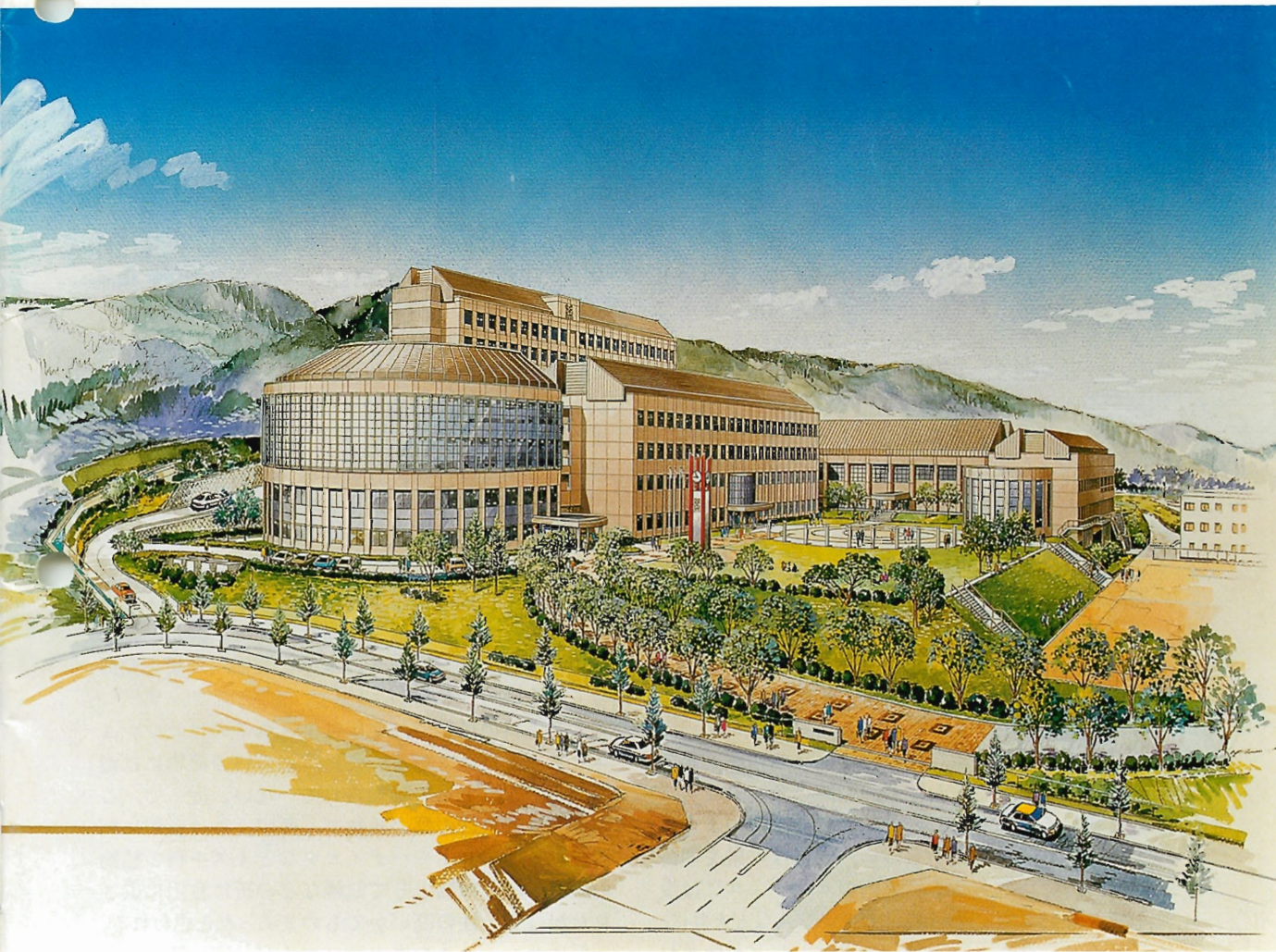


大阪薬科大学報

32

1995年(平成7年)6月10日発行

大阪薬科大学広報委員会



新キャンパス建物完成予想図

薬用植物の紹介

サンシュユ (*Cornus officinalis* Sieb. et Zucc.)

(ミズキ科)

「庭のサンシュユの木、鳴る鈴かけてよ」とひえつき節に歌われる木については、サンシュユとサンショウの2説がある。今回取り上げる薬用植物は、そのうちのサンシュユで、ハルコガネバナあるいはアキサゴとも呼ばれる。

サンシュユは享保7年(1722)に種子が朝鮮からもたらされ、小石川御薬園(現東京大学理学部植物園)で10年ほどかけて、育てられた。その後、早春の花木として各地に広がっていった。このような経緯を考えると、宮崎県の民謡に歌われた木は、昔から自生していたサンショウ(ミカン科)であろう。事実、地元の民謡協会では「サンショウ」と歌っていると聞く。

サンシュユはミズキ科の落葉中高木で、大きいものでは幹高4m、太さ径30cmになる。春早く葉がでるより先に、木一面の小枝の先に散形花序をつけて、黄色の小花を開く。花序の下には4枚の褐色の堅い包葉があって、花を保護している。花には小柄があり、4枚の花弁、4本の雄蕊、1本の雌蕊がある。

同属植物としてはアメリカハナミズキやヤマボウシなどがよく知られている。これらでは4枚の包葉が花弁状に開くので、サンシュユとはかけ離れているように見えるが、4枚の花弁、4本の雄蕊、1本の雌蕊はよく似ている。春に花のついた枝は生花として用いられ、秋に紅色に熟する果実はサンシュユの名で薬用に供される。市場品は果実を熱湯に浸し、半乾の時に堅い種子を抜きとって果肉だけを乾燥したものである。

サンシュユは神農本草綱目の中品に強精薬として取り上げられている。しかし、当時のサンシュユは種子を残していたもので、苦味が強く、今のように種子を除いて苦味が弱いものに、同様な効果を期待できないという説もある。果肉のサンシュユには没食子酸、リンゴ酸、酒石酸、ビタミンAなどと共に、イリドイド、ウルソール酸、サポニンなどが含まれる。

これらの含有成分から考えると、不足しているエネルギーの補給、ストレスに対する抵抗力増強、抗菌作用などが期待される。サンシュユだけでは薬と



して使われないが、漢方薬の牛車腎気丸、八味地黄丸、六味丸などに配合される。これらは糖尿病様症状によく使われる漢方薬で、腎気を強めると考えられている。漢方の腎は今の腎臓、膀胱などの泌尿器に副腎、生殖器などを包含したもので、糖尿病の症状と腎虚(腎気が弱くなった状態)はよく似ている。また、腎は肝を助けると考えられ(肝腎の由来)、腎気を強める漢方薬が肝経に属する眼の病気にも応用される根拠になっている。サンシュユは腎虚を改善する代表的な漢薬なのである。

抗癌剤シスプラチンの毒性を減弱させるといわれた漢方薬十全大補湯の本体が、リンゴ酸であったと聞いている。植物に広く分布するリンゴ酸が、知らないところでサンシュユの本体として、効果を発揮しているかも知れない。

ミズキ科の植物で、薬用に供されるのはサンシュユとアオキだけである。また、この科の植物には毒性が心配されるものは知られていない。従って、この仲間は安全性の高い植物で、薬用よりは食用に利用される。ミズキやハナイカダなどミズキ科の植物の葉が、救荒植物として飢饉などの折に食用に供されたが、安全性の高いかでものであったと思われる。一部にサンシュユを果実酒にするが、理に合っているとと思われ、アメリカハナミズキやヤマボウシの果実なども含めて、色鮮やかな果実酒を造り、楽しむたいものである。

(文 教授 草野次郎、 写真 助手 芝野真喜雄)

目 次

薬用植物の紹介	草野源次郎
大学移転にむけて	理事長 大村栄之助…2
新入生へのメッセージ	学長事務取扱 森本史郎…3
新入生を迎えて	教務部長 沼田敦…4
惜別の辞—心の Care—	森下利明…5
森下教授最終講義より	碓井信二…6
第2回市民講座	7
新キャンパスの建設状況について	栗原拓史…8
平成8年度国試対策の取り組みについて	石田寿昌…12
平成6年度就職状況報告	就職部長 稲森善彦…16
平成7年度学校法人予算について	事務局長 河野光次…20
学生課だより	21
阪神・淡路大震災—被災学生相談室から—	森逸男…22
保健室だより	23
教務課だより	25
学位授与	26
第80回薬剤師国家試験結果	27
人事異動	28
施設課だより	30
図書館だより	
学位記授与式・卒業式・入学式	31
前期行事予定	
各部・委員会・委員一覧	32
教員研究業績一覧(1994年)	34
親和会だより	41



大学移転にむけて

理事長 大村 栄之助

今年は、昨年来の不況に円高と、景気は低迷し、うっとしい幕開けとなりましたが、さらに追い討ちをかけるように1月17日、突然に襲った兵庫県南部地震では、阪神地区は勿論、日本中大変なショックと大きな被害を受け、前途多難な年を迎えることになりました。このような環境のなかで、本学にとっては、重要な移転事業のスタートの年となりました。

本学は昭和7年、大阪府下守口から、帝国女子薬学専門学校として、現在の松原市の土地に移転してきました。以来60余年、本館、実験室の一部は些か老朽化し、改築が迫られていました。本学中心敷地は狭く、改築が必ずしも容易でない上、グラウンド、薬草園その他が分散していて、若い学生に魅力のある新キャンパスを建設するためには多くの、問題があると考えられました。

また、従来本学は他の大学、企業、研究機関との交流が少ない理由の一つは地理的にも些か孤立しているという問題もありました。

近年、大学はより社会との緊密な接点をもたねばならないと言われていました。まして薬学の単科大学である本学は、従来以上に、大学、研究所、病院、企業など外部との交流を活発にしなければなりません。

このような観点から、かねがね新しいキャンパスを探し求めていましたが、平成3年高槻市の斡旋により阿武山地区に土地を取得することが出来ました。

大学の移転は大事業と申せます。特に本学の場合、多くの問題を抱えています。昨年90周年を迎えた伝統のある大阪薬科大学として、100周年へのさらなる発展のため、あえて移転に踏み切った次第です。

ここ数年来、本学の移転計画について諸般の準備を進めて参りましたが、平成8年4月開校をめざして、昨年の春以来、急速に進展して参りました。

まず、新キャンパスの設計は関西では代表的な安井建築設計事務所に依頼し、栗原教授が建設委員長として、学内の各部門の先生方からの意見を調整しつつ、鋭意、設計事務所との打ち合わせを行い、最終案の完成を急ぎました。

7月には建設施工は大林組に担当してもらうことに決定いたしました。10月末、安井建築設計事務所から出された設計図に対する見積価格を大林組に提示し、大学側としての意見をも伝え、12月6日、ひとまず条件付でしたが、請負契約を大林組と締結いたしました。

12月15日、高槻市長はじめ関係者多数列席の下、地鎮祭を挙行し、早速工事がスタートされました。

その後のキャンパス建設状況については栗原建設委員長の詳細な説明が本誌に掲載されていますので、ご参照ください。

薬学はいま大きな過渡期を迎えています。本学も例外でなく、薬科大学としては、より社会に開かれた大学になり、積極的に新しい薬学を目指し、改革に遅れをとってはなりません。

さいわい今度、移転する高槻市は京都、大阪の中間に位置し、交通の便は良く、大阪医科大学、関西大学国際情報学部をはじめ、日本たばこ（JT）、小野薬品、サントリー、住友化学などの企業研究所も多く、種々交流に便利な場所であります。

18才人口の減少による大学の生き残りを考えたとき、優秀な学生を育成するためにも、まず良き環境を作ることが重要であります。

新キャンパスへの移転によって、全学の気分を一新することに、大きな期待をかけています。

一時の困難をも全学が一致団結して克服し、本学の将来の発展の為に、移転の大事業の完遂に向かって邁進していただくことをお願いいたします。



新入生へのメッセージ

学長事務取扱 森 本 史 郎

新入生諸君、入学おめでとうございます。

今年の始め、私たちは阪神大震災に遭遇いたしました。この未曾有の災難にもめげず難関を突破された方々を含め、希望に満ちた諸君を本学にお迎えできましたことは、このうえない喜びであり、心からお祝い申し上げます。

本年度は本学で初めて実施した大学入試センター試験利用入学試験に合格し、入学された方々もおられます。従来の推薦入試および一般入試で選ばれた諸君に、異った基準で選ばれた諸君が新たに加わることにより、本学がより活性化することを期待しております。

薬学とは薬の創製、生産、管理、供給や患者への適用等に関する理系の総合科学であります。すなわち、薬学は疾病の治療や予防に必要な医薬を通じて医学と深く関連し、人間の病気を治し、健康を保持するために必要な物質についての科学や技術に関する学問体系であります。我が国の薬学では、薬剤師のみならず、広く薬学研究者、技術者の育成に貢献してきましたが、最近では、医療チームの一員としての薬剤師の役割が社会的に強く要請され、医療の質の向上に寄与すべき責任が課せられています。皆さんはこのように、薬学が人類の福祉に貢献する重要な分野として社会的に期待されていることをよく認識していただきたい。

学部入学の諸君は、これから大阪薬科大学学生として勉学を続けることとなります。そこで、先づ大学での勉学について述べてみたいと思います。その第一は、はっきりした目標のある大学生活を送っていただきたいことです。高校時代は、大学に入るといふ明確な目標に集中していたことと思います。念願がかなって大学生活を始めたにもかかわらず、学業に十分な成果を上げることができない人が少なくありません。多くの場合、「こころで一休み」といった安易な気持ちに流れ、学生の本分を忘れ、無自覚、

無規律な生活に身を堕してしまうことにあります。次元の高い目標を掲げて、これに向かって進むことを心掛けてほしい。初めの一年間をいかに過すかが、後の学生生活さらに将来の進路決定などに大きな影響を及ぼします。次に、大学での勉強とは、教室で学習したことをばらばらの断片的な知識として頭の中に凍結してしまいこんでおき、試験のときにそれを解凍し陳列することではないということです。知識というものは、渾然たる一体として、学ぶ者の血肉を構成し、それが将来の学問的あるいは人格的な成長の基礎となるものでなければなりません。理解できなかった点、もっと理解を深めたい点を調べるためには、先生方に質問したり、自分の要求を充たしてくれる本を探し出し、読むことが大切です。最後に申し上げたいことは、友人との触れ合いとつながりを大切にしてほしいということです。日常生活やクラブ活動を通じた人々との出会いが、皆さんの生き方に大きな影響を与え、生涯にわたって心の支えとなるはずで

大学院に入学の諸君は、この機会になかば社会人になったのだという意識を十分に持っていただきたい。大学は教育の場と同時に社会に貢献する研究の場であり、研究の一端を担いその内容を論文にまとめる点において、社会で研究に従事している研究者とまったく同等なのです。研究を通じて、どのように問題をとらえ処理するか、さらにはどのように人と協力していくかを、いろいろと体験することが大きな教育効果となって現われてくるのです。常に冷静かつ謙虚に研究課題の本質を見極めて、各自の知恵を十分に磨いていただきたい。諸君の旺盛な研究意欲と新鮮なエネルギーに大きな期待を寄せています。終りに、新入生諸君が薬学という学問領域に身を置いたことを自覚して、人間に対する暖かい愛情を持ち、洞察力と探究心を養い、充実した学生生活を送られるよう心から期待します。



新入生を迎えて

教務部長

教授 沼田 敦

桜花爛漫のなか、薬学を志して伝統ある本学に入学された新入生の皆さんを心から歓迎いたします。

近年、大学入学試験の多様化の機運が高まり、本学も一般入試および推薦入試に加え、本年度からセンター試験を導入し、各入試方式により選抜された多様な能力を備えた新入生をお迎えすることとなり、今後皆さんがどのように成長されるか楽しみにしているところであります。

薬学は医療、創薬、公衆衛生等幅広い分野における理論と応用の学問であります。近年医療の高度化と医療の質の向上を求める国民意識が高まり、医療における医薬品の適正使用に関わる医療薬学教育の充実が期待されるようになりました。これを受けて厚生省、文部省、医療関連機関、薬学教育関連機関等が医療人としての薬剤師養成のための医療薬学の充実に向けて種々検討してきました。それにより薬学教育において医療機関における実務研修を実施することを重視する方向がうたがわれる一方、薬剤師国家試験の出題基準等の見直しが行われ、平成8年からは4つの試験分野（基礎薬学、医療薬学、衛生薬学および薬事関連法・制度）から出題されるとともに医療薬学の出題が増えることになりました。さらに薬学教育修業年限延長の実施に向けて検討されております。

今なお一人の患者に十種類以上という驚く程の数の薬が投薬されているケースがみられる状況ですが、医療薬学教育の充実が進み、薬剤師が医薬品の適正使用に努力するようになればこのような状況が改善されていくことと思えますし、そうならなくてはなりません。

このような薬学教育の改革が求められるなか、本学では、大学設置基準改正に関連して昨年度改訂したカリキュラムの医療薬学関連科目について薬学教育検討委員会（委員長玄番宗一教授）がさらに検討

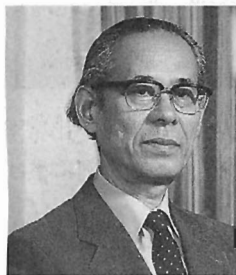
し、薬剤師国家試験の新基準に対応でき、かつ薬学教育4年制における医療薬学の充実を図るカリキュラムとして再編成し、今年度から実施する運びとなりました。

大学入試制度、薬学教育、薬剤師国家試験出題基準等の大きな変革期に、私が今年度から教務部長に任せられ、重責に身がひきしまる思いであります。しかし、教務部委員（馬場、松島、松村（靖）、藤本、辻坊、大桃各助教授）、教務課員（高橋課長、福永係長、村田、斉藤各課員）をはじめ、諸先生のご協力をお願いして教職員や学生の皆さんのご意向に添えるように教務上の仕事の遂行に努力したいと思っております。カリキュラムおよび履修要項の改訂に伴い、教務上複雑な面があるかも知れませんが、学生の皆さんには不明な点があれば、アドバイザー、教務部委員の各先生、教務課員または私に遠慮なくご相談ください。

薬学は自然科学の一分野であり、これを志向する皆さんには常に自然現象に目を向ける習慣を身に付け、解明されている現象であっても疑問をもって観察し、新たな自然の仕組の発見、ひいては新薬の発見につないで頂けることを期待します。また、大学では知識を会得することは勿論大切ですが、将来未知の課題に遭遇するとき、それを自らの力で解決できるような能力を養うことが、人格の形成と並んで最も重要なことと思います。例えば身近なことと言いますと、教科目の内容で分からないところが出てきたとき、担当の先生に質問すれば容易に解決することですが、それを自らどのような調べ方をすれば解決できるかを模索することが、すなわち問題解決能力を養うことにつながりますので、是非実行して頂くよう期待しております。

「心」の Care

森下利明



私たちは、体の具合が悪くなるとすぐに薬を飲み、
或いは医師の診察をうける。身体のケア (care) に
ついては万々怠りが無いのである。つい前の時代ま
では「人生五十年」とか、「人生七十、古来稀なり」
とか口にされていた。しかるに、現代日本はいつし
か世界一の長寿国に数えられるようになった。その
要因は幾つかあると思うが、一般に人々が身体のケ
アに徹してきた結果、という見方が可能なのではな
かろうか。戦後の日本人は、「心」よりも物質的な
ものに価値を置くという、いわば物質信仰とも云う
べき方向に大きく傾斜してきたように思うのである。

人間にとって最も大切なもの、つまり人間生命の
本質とも云うべきものは、物質としての身体とは対
極のものである筈である。ソクラテスはこれを「魂」
と云い、魂のケアこそ人間にとっての最重要事と考
え、従ってこれを教育の原点に据えたことは、よく
知られている。今日、日本の教育に欠けているもの
は、まさにこの「心」のケアではないかと思う。
(今仮りに魂を心に置きかえておこう。)

心とは何か。心は意識であるというのがデカルト
以来の西欧の伝統である。(日本的な心と完全に重
ならないという問題が残るが、) 第六感である意識は、
五識=感覚で捉え難い。従って、心は感覚を超えた
非物質的なもの、目に見えない存在である。それ故
に今日の若者は、これをどうでもいいものとして軽

視する風潮がある。外からは、人々が心の中で何を
考え、何を望み、何を希っているか、ということが
わからない。わからないものは自他に無関係である
と、彼等は結論するのであろう。

だがしかし、私はこれ程大きな誤りはないと思う。
一体、心の中で営まれる行為 (考えていること、希っ
ていることなど) が、その人の人間形成に何等影響
を与えないなどと、どうして考えることが出来よう
か。心の中の営みこそがその人をつくる、というよ
うなことは、巷間で古来語り継がれているように、
それは明白な事実なのである。

更にまた、複数の人が同じ目的をもって事を成そ
うとする時に、みんなが同じ心の営みをもたなけれ
ばその実があがらないことも、理由は同じであろう。
「心を一にして」という言葉が、近頃あまり使われ
ないのは、あの「教育勅語」の中にある「億兆心ヲ
一ニシテ」という言葉を思い浮かべるからであろう
か。全国民が心を一つにして、天皇のため皇国のた
め、と続くその目的に誤りがあったにせよ、力を合
わせる以前に、心を合わさなければ目的が達成され
得ないことは今日も変わらない。ところが、戦後はそ
の「心」が廢れた。これにとって代ったのが悪しき
物質主義であると云えるのではなかろうか。

論語の中に「巧言令色、鮮 (すくな) きかな、仁。」
という言葉がある。人に対して愛想がよく、言葉巧
みな人ほど、仁の心が乏しいものだ、という位の意
である。それは孔子の人生経験を通じて、ふと出て
きた嘆声と解したい。「仁」を仮りに人間愛とか真
実という言葉に置き替えれば意味は明瞭であろう。
人間、心ほど大切なものはない。その故に或人の行
為や言葉が心から乖離している時、その人が最も信
用できぬ類の人であることは、たとえ世俗の人でも
感じとることが出来よう。人の心ほどわかりにくい
ものはない、と云われる反面、また自分の心を完全
に隠し通せるものでないことも明らかなことである。
2500年前も今も、人間の心に関しては何等変ると
ころがないと云わなければならない。

孔子が云うところの、豊かな「仁」の心を育てる
ということ、それはソクラテスの云う「魂」の世話
ということと同じであると思う。それは現代にも通

ずる教育の原点であろう。この原点に立ち帰って、物質主義に毒されている今日の教育を見直すことは、十分意義のあることではなかろうか。

そしてまた、わが薬大の発展のために、今何が大切であるかということを見失うことなく、全学「心を一にして」取り組んでゆかれることを、心から希ってやまない。

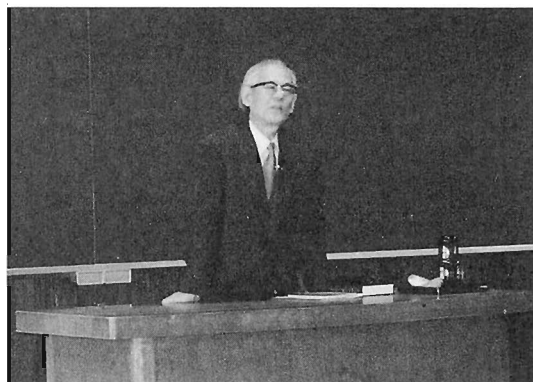


森下教授最終講義より

教授 碓井 信二

森下先生の教育的情熱は衆知のところである。それも年々歳々いよいよ盛んな趣きがある。特にこの数年来本学は「推薦入試」に端を発した入試制度の多様化、「総合科目」の開講等新カリキュラムの実施に伴う教学組織の改革、また学外的には生涯教育の一環として「生命倫理」の立場から公開講座への寄与等、薬学教育のほぼ全過程にわたり先生の御指導に与り、その恩恵を受けてきた。その顕賞をここでする必要はあるまい。先生御自身、一身上の事柄に関わる公的挙揚は固辞される質である。それ故ここでは教育問題が倫理学者としての先生の在り方に何を意味したかに関し、今回の最終講演から得た私的所感の一端を記すにとどめたい。

教育の問題はその特殊な人間関係、教育する者とされる者との関係を離れてはあり得ない。先生の持論に従えば「倫理」とは人間的「関係の理」であろうから、倫理学者の関心が「教育」に向うのは当然としても、先生の場合それは実践的で、単なる学理に終始する風はなかった。本学御着任当時の先生に伊藤仁斎（江戸前期の京都の儒学者）の「仁は愛なり」の所説に関する論考があるが、仁斎の庶民的学風に寄せる先生の関心は、言わばこうした自らの性向を語るものであろう。教育の理想の人間関係を醸成する要件として、先生はむろん自主的な学習意欲にあふれる学生達を愛された。だから今回の講演で



も某看護学校での経験として、学生達の高い出席率や講義内容への積極的関与を特筆すべき事例に挙げられたのである。

しかしそうした理想的師弟関係が今日の教育現場で常に保証されるとは限らない。それどころか学生達は教育の可能性を必ずしも信じていないし、その低出席率・私語の横行・思考の停止といった事態を前にして、幻滅・焦慮・不安を覚えたことのない教師がいるとしたら、その感受性こそ疑われてしかるべきだろう。本学の「教育不在」に対する先生の警告にそうした教育的人間関係の破綻・荒廃を前にした一倫理学者の義憤を聞きとることは容易だが、しかしこの際考えるべきは、今日そうした荒廃を惹起しつつ進行する社会的・文化的枠組の変動の重大さであろう。

「文化」が人類の連帯感を虚構する想像的原理だとすれば、共同体の文化的変動期にあって社会的孤立化を余儀なくされた若者達が、教育の幻想に冷笑を浴びせるのもけだし当然かも知れぬ。問題はそれ故、彼等に新しい共同社会への参加を促し得るような文化的視座の創設ないしは再構築の必要性だろう。その注目すべきは現代医学に対する先生の近年の批判的傾向、とりわけ「個人の死」に対する伝統的習俗としての「共同体社会の一員の死」という死生観の相違の強調および、後者に含まれる新しい人倫的意義の思索である。何故ならこの思索から最近の先生の「生命倫理」に至るには、思想的にはほぼ必然の展開が可能だからである。

先生の倫理的思惟は、このように絶えず教育的実践から自己開発のエネルギーを得ていた。それ故教

学的にも財政的にも存亡の岐路に立つ本学の現状に対し、講演の最後に「80年史」の編纂余話から建学の難事業に一致して当った往時の理事達の「意業」を継ぐよう説かれたのもいかにも先生らしい遺訓だったが、しかし一次資料に基づいて語られるその史談には、単なる教訓以上の興味をそそるものがあった。けだし史的感興は、人間が自己の所業によって自らの生存圏を—逆の場合にはむろん滅亡の淵を—

開いてゆく存在者だということを自覚させることによって、過去と現在を結び合わせる視点を与えてくれるところに生じるが、そこには自己の形成する文化に応じて盛衰する我々自身の運命が見えてくるからである。

最後に先生の御健勝と御活躍を祈りつつ、長年の御教導への感謝に代えたい。

大阪薬科大学第2回市民講座

「健康とくすり」

日時：1995年6月3日(土) 午後1時30分～4時30分
場所：松原市文化会館ホール 松原市田井城1-3-11 TEL 0723-36-5755
定員：約600名(先着)

入場料：無料

講演：「健やかに生きるための生活の知恵」 大阪薬科大学助教授(生薬学) 馬場 きみ江
健康野菜アシタバの効用

「痴呆(ボケ)にきく薬をめぐって」 関西医科大学教授(精神神経科学) 斎藤 正己
くすりとの上手なつきあいかた

その他：午後 $\left[\begin{array}{l} 12:30 \sim 1:30 \\ 4:30 \sim 5:00 \end{array} \right]$ にくすりの相談コーナーを開設し、薬剤師約20名が日頃のくすりに関する悩みや疑問点などの相談に応じます。

主催 大阪薬科大学

共催 大阪薬科大学同窓会, 大阪府薬剤師会, 大阪府病院薬剤師会, 松原市薬剤師会

後援 松原市, 大阪府

問い合わせ先：〒580 大阪府松原市河合2-10-65 大阪薬科大学市民講座委員会(事務局)
TEL: 0723-32-1015(代) FAX: 0723-32-9929

特別講演会

演題：Induction of Apoptosis by Virus Infection and its Regulation by bcl-2 gene transfection (ウイルス感染によるアポトーシスと bcl-2 遺伝子導入によるアポトーシス阻害)

演者：Virginia S. Hinshaw, PhD

Associate Vice Chancellor of the University of Wisconsin-Madison

Professor of the Department of Pathobiological Sciences, School of Veterinary Medicine,

University of Wisconsin-Madison, USA

日時：平成7年2月15日(水) 午前10時半～11時半
場所：大阪薬科大学1階大会議室



新キャンパスの建設状況について

建設委員会委員長

教授 栗原 拓史

平成8年、大阪薬科大学は永く住み慣れた松原市を離れ高槻市奈佐原にそのキャンパスを移します。

阿武山の丘陵地に開けた緑豊かな新キャンパス、総面積59130㎡の広大な敷地に、なだらかな傾斜を有効に利用しながら、これからの若い学生諸君にアピールしえる近代的なデザインの建物（設計：安井建築設計事務所）が配備される予定です（断面図参照）。

全体平面図の中で網かけされた部分が建屋であり、その主だったものについて順次説明を加えていきます。

最も高い場所に位置する地下1階、地上6階からなる研究棟（延べ面積9946㎡）は、地階にRIセンター（512㎡）および実験動物センター（873㎡）、1階には非実験系教員の研究室兼個室（各27㎡）と共同研究室、セミナー室が中央のエレベーターホールを隔てて南側にまとめられ、北側にはかねてからの懸案であった中央機器センター（MAS、NMR、元素分析、X線やタンパク遺伝子解析室などの総面積約836㎡）が配備されています。2～6階には各フロアに5つの計25の研究室がほぼ専門分野ごとに配備されており、そこには将来の医療薬学などに対応出来るよう3つの予備研究室（2、4、5階に各1室）も準備されており、さらには病院担当研究室（2階）（仮称）、小共通機器室（3～6階）職員談話室（4階）、アメニティルーム（6階）、国家試験対策室（4階）、セミナー室（5階）などが用意されています。各研究室は個室（25㎡）、実験室（135㎡）の他に、多目的室と名付けたゆとりの室（30㎡）を設け、研究室に配属される特別実習生や大学院生へのより良い環境を提供しています。

講義・実習棟（延べ面積7525㎡）は1～2階が講義室、3～4階が学生実習室から成り立っています。講義室は1階に346席ある講堂兼用の大講義室と60

席の小講義室が6室あり、中央のエントランスホール近くに男子、女子学生用のロッカー室がそれぞれ準備されています。また、2階にはやや大き目の中講義室（240席）が1室と160席程度の中講義室6室が整然と並び、中央には学生たちが休み時間に憩えるロビー風の大きなスペース（104㎡）が用意されています。実習室は医療・薬理系、理化学・衛生系が3階に、有機・生薬系、生物系が4階に配備されています。各系の実習室には中央の準備室（93㎡）を挟んで2室（各室252㎡）に分けられていますが、これは1クラス（70～80名）実習にも、2クラス（150～160名）合同実習にも対応可能であり、年間を通じて各学年の実習が能率的に運用出来るように設計されています。また、RI専用の学生実習室や調剤実習室が、それぞれ3階の理化学・衛生系、および医療・薬理系に隣接して、生薬標本室が4階の有機・生薬系に隣接して設けられています。更に、4階にある情報処理室や情報演習室には最新の設備を導入して、学生の教育と研究に対応できるように計画されています。

正面入口に近い場所に位置する管理・図書館棟（延べ面積4010㎡）は半円形でガラス張りの最も目立つ建物になることでしょうか。1階の玄関ロビーに接して、学生諸君に関係深い教務・学生課や就職関係の部屋があり、外来講師控室、保健室、応接室が並んでいます。2階は理事室、学長、事務局長などのいわゆるVIPルームが配置され、法人会議室、大会議室などの他、庶務、施設、経理の各課も2階に位置しています。3～4階が図書館であり、その広さ2030㎡は現在の約250%増で、かなり充実した内容になることが予想されます。大半を開架・閲覧室で占め、6万冊余の蔵書が収納されることになっています。また、AV資料室、情報検索室、自習室なども完備され、勉強の場としての居心地のよい環

境を約束してくれることでしょう。

学生諸君が休み時間に最も集まる中央のコミュニケーション広場を横切ると学生会館(延べ面積2196㎡)があります。1階には近代的なカフェテリア方式の食堂(350席程度)、談話・喫茶室(150席)と続き、中央には購買部(94㎡)が設けられます。皆さんにはいづれも関心の高い施設でしょう。食堂、喫茶は高槻市に拠点を置き、市を中心に営業活動をしている(株)唐崎屋に依頼することになりました。また購買は(株)紀伊國屋書店による大阪薬科大学ブックセンター(仮称)が設立され、教科書、専門書、一般書籍等のほか、文具、雑貨、日用品さらには諸々のサービスコーナーなどが計画中であります。高槻キャンパスは回りを山と住宅地で囲まれるため、学内で学生、教職員のニーズに対応出来、楽しいキャンパスライフが送れるよう、こうした設備の充実を図る必要があります。今後学生部を中心にした詰めの作業が必要になってくると思われます。また、2階は196㎡の広さのあるホールや学生会執行部室、文化部の学生たちの課外活動の拠点となる施設などが整えられています。

体育館(延べ面積2886㎡)は1階にアリーナ(42m×32m、面積1344㎡でバレーボール、バスケットボール各2面やハンドボールに十分対応出来る広さ)やトレーニングルーム、男女シャワー室などが設備され、2階には柔道、剣道場や準備室、セミナー室なども設けられています。また、当分の間、入学式、卒業式を始めとするセレモニーホールとしても兼用する予定で設計されています。

グラウンドの北側に3階建の学生クラブハウス棟(延べ面積1256㎡)があります。1クラブ当り18㎡の部屋が予備室(4室)も含めて35室のほか、セミナー室(2室)、暗室、倉庫(3室)、男女シャワー室、給湯室(3ヶ所)などが準備されています。その他、軽音楽の練習室(約100㎡)は騒音対策を完備して体育館の北側に、また、本学では人気の高い弓道部の練習場は射場と的場の建屋(115㎡)を含む延べ面積450㎡の広さがあり、安全を配慮して、これも体育館の北側に配備されています。

温室(142㎡)、薬草園管理室(33㎡)、守衛室(20㎡)、危険物倉庫(35㎡)、ゴミ集積場(70㎡)、倉庫などについては未だ完全に固まっておらず、検討中の段階です。

一方、グラウンドに目を転じると、南端に予定さ

れているグラウンド駐車場を除くと、その広さは122m×72m、面積8640㎡あります。サッカー、ラグビーには一応対応出来る広さかと考えますが、硬式野球の試合にはとても使用出来る広さではありません。ある程度の練習は可能でしょうが、試合または試合形式の練習には、どこか他の練習場を見つける必要があります、今後の大きな課題でありましょう。

テニスコートは幸い4面を確保することが出来ましたが、かねてから教職員から要望があった福利厚生の一貫としてのテニスコートの準備は出来ていません。学生諸君が、時には1面を教職員が使用することに寛大な理解を示してくれればと願っております。

また、薬系大学の教育と研究に欠かせないのが薬用植物園(約3000㎡)で、最も下段の、東の端に位置しています。松原校地で育てた価値ある生薬を移植するとともに、一層の充実をはかり、高槻市民との交流の場として積極的に提供できればと思っています。

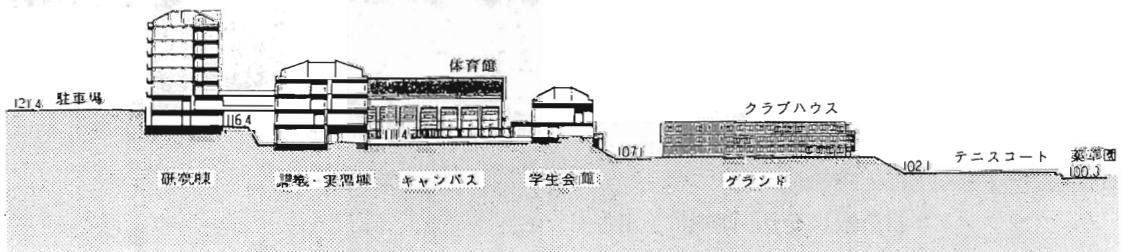
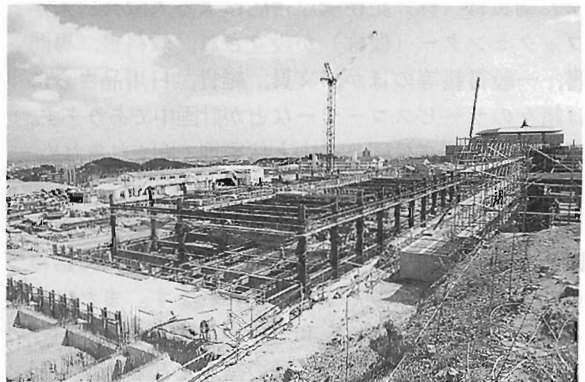
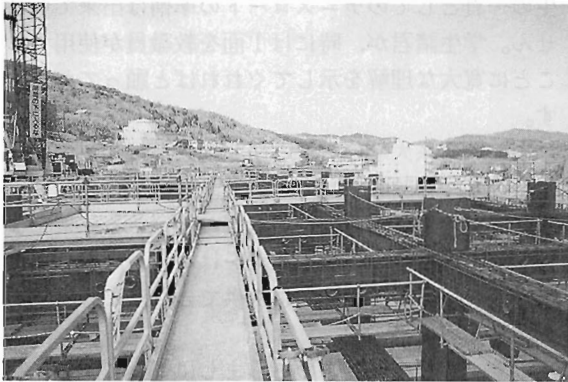
以上、建設設計計画のあらましについて記しましたが、新しい立派な建物で、大勢の方が気持ち良い環境のもとで学び、活動していけるよう、また薬科大学という国民の健康に貢献する立場と社会情勢を



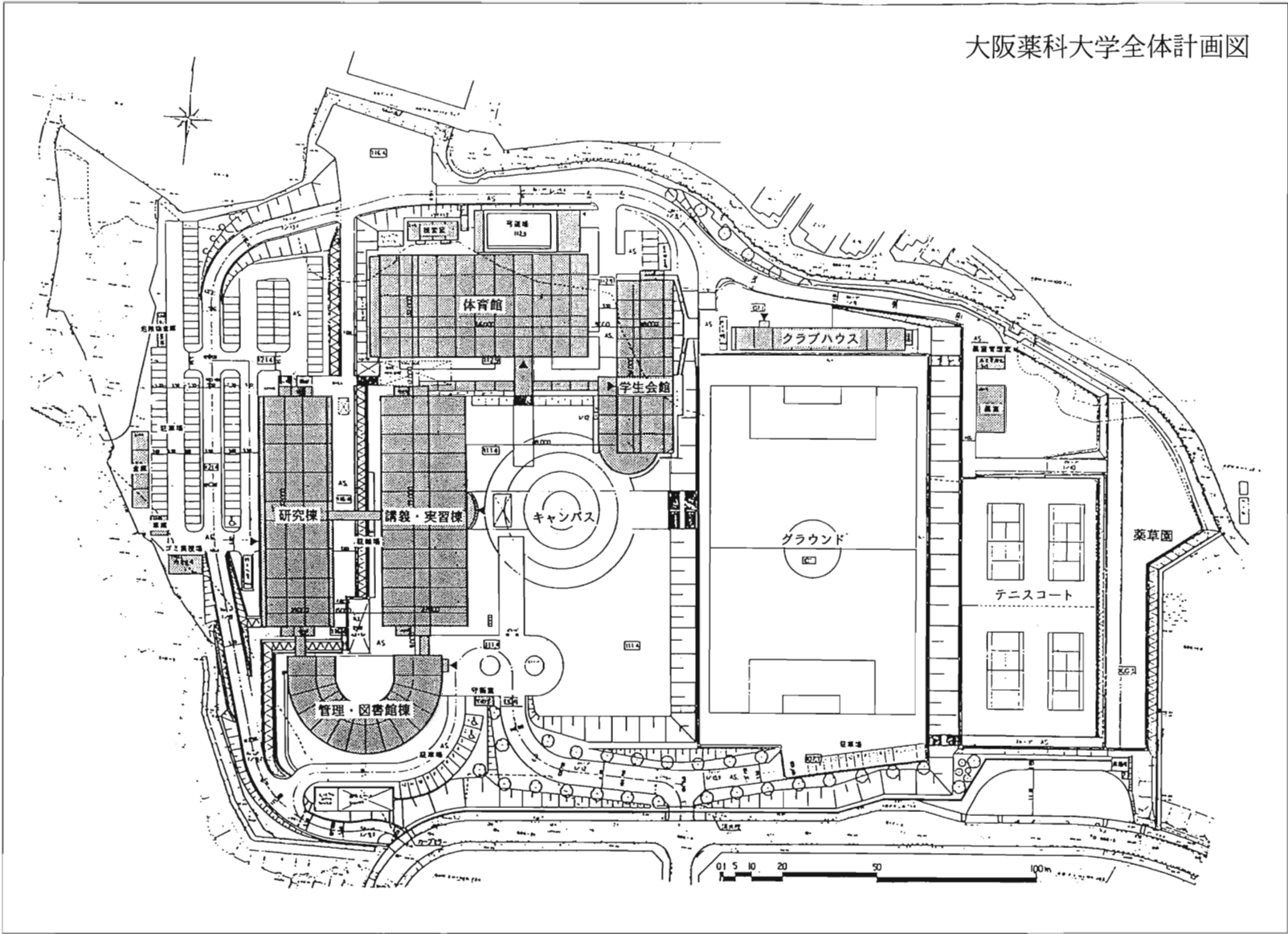
も鑑みて、新キャンパスでは一定の喫煙場所を設け、原則的全面禁煙を提案したいと思いますが、いかがでしょうか。

昨年12月15日に現地で地鎮祭（写真参照）が挙行われ、その後着々と工事が進んでおります〔施工業者：（株）大林組〕。阪神・淡路大震災の影響で進捗状況に若干の遅れは見られるものの、既に研究棟、講義・実習棟とも1節目の鉄骨建方を完了し、基礎・地中梁の工事中であり、管理・図書館棟も同

じく、基礎・地中梁の工事中であります。また、体育館は基礎のコンクリート打を行っており、学生会館は杭打ちを完了した段階です。さらに、土留用の擁壁や排水、道路工事が並行して行われており、全体の建設工事の進捗率は約15%とのことであります（写真参照、3月末日現在）。平成8月2月竣工に向け、今後大過なく工事が完了することを祈るのみです。（平成7年3月22日 記）



大阪薬科大学全体計画図





平成8年度国試対策の取り組みについて

——4年次学生諸君へ——

国試対策委員会委員長

教授 石 田 寿 昌

まず最初に本年度の国試対策委員を紹介いたします。平成8年度の薬剤師国家試験出題基準に従い、「基礎薬学」、「医療薬学」、「衛生薬学」および「薬事関連法・制度」の科目主任として、それぞれ三野芳紀助教授、西野隆雄講師、辻坊 裕助教授および安田正秀講師に、また、薬学総合演習の主任として中元英雄助教授にお願いしました。さらに医療薬学全般の立場から森本史郎教授、教務サイドから沼田敦教務部長に委員をお願いし、計8名が本年度の国試対策を担当することになりました。

すでにご存知のことと思いますが、薬剤師国家試験の出題科目および出題数が平成8年度から大きく変わります。即ち、従来の「日本薬局方」、「薬理学」、「薬剤学」、「衛生化学・公衆衛生学」、「薬事関係法規」が「基礎薬学」、「医療薬学」、「衛生薬学」、「薬事関連法・制度」の4つの出題分野に変更となり、出題数も200問から240問に増加します。結果として、各科目の出題範囲が広範にまた総合的になることは明らかです。このような国家試験の変更は、医療の担い手としての薬剤師の社会的役割の重要性を考えると当然の事であり、今後ますます国家試験レベルが高くなることは想像に難くありません。

学生諸君の多くは本学へ入学した最大の理由として薬剤師になることを挙げると思いますし、また、薬剤師の合格率が大学の評価（偏差値）に大きく関係していることも事実です。従って、本学教職員は国試対策の重要性を十分認識すると共に、以前より

薬学総合演習を通して積極的に取り組んできました。その結果、平成7年度国家試験合格率は、全国レベルでの合格率が減少しているにも拘らず、新卒者で93.51%で、全国第一位になりました。本年度の国試対策委員も従来から築いてきた積極的な国試対策を踏襲、発展させるつもりでいます。

本年度の国試対策として、平成8年度の国試内容の変更に対応させることも考慮して、次のような取り組みを計画しています。即ち、平成8年度からの新しい出題分野である「基礎薬学」に対し、表1に示す日程で前期から薬学総合演習（補講として）を行います。

基礎薬学関連の未修得科目数に応じてA～Cの3クラスに分け、B、Cクラスに焦点を置き、AクラスはB、Cクラスのいずれかに自由参加する形式を取ります。学生諸君の全員出席を期待して止みません。

「基礎薬学」を前期から行う最大の理由は、その試験内容が薬剤師としての専門知識を修得するのに必要な基礎的資質に関するもので、暗記よりむしろ理解力が問われ、その理解に長時間を要するからです。「基礎薬学」として60問出題されますが、この「基礎薬学」の成績如何で国試合格率が大きく左右されると言っても過言でなく、学生諸君の夏休み中での「基礎薬学」に対する取り組みが極めて重要であると本委員会では考えております。

後期からの薬学総合演習の具体的な日程はまだ決

まっていますが、基本的には昨年と同様に行う予定です。即ち、「医療薬学」、「衛生薬学」「薬事関連法・制度」を中心とした国試対策を行います。また、「基礎薬学」の一部も後期で行う予定です。後期からの薬学総合演習は正規科目ですので出席が義務付けられるのは当然のことです。

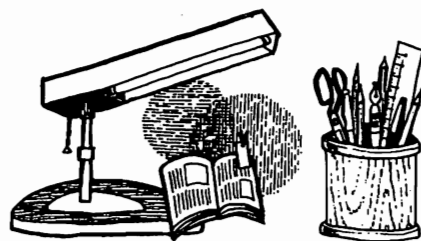
平成8年度からの国家試験で大きく変更するのは「医療薬学」であり、これは従来の「薬理学」および「薬剤学」に加え、「臨床薬学概論」、「臨床医学概論」、「病態生理学」、「医薬品毒性学」、「臨床薬理学」、「医薬品情報学」等が含まれ、結果として、出題範囲とその内容が従来よりも広範で、体系的、総合的になることが予想されます。また、問題数も120問に増加されることから、国試対策として「医療薬学」に如何に取り組むかは極めて重要な課題があります。殊に、学内で学ぶ知識に加え、実務研修で修得されるべき内容もかなり出題されることが予想されることから、本委員会では、出来るだけ多くの現場で指導されている先生方を講師として招へいし、薬学総合演習に参加していただくよう計画中です。

本年度は、薬学総合演習の単位認定のために、4回の薬学総合演習試験（内1回は「基礎薬学」）ならびに正規定期試験と再試験を予定しています。昨年度は単位未修得で15名の学生が卒業延期となりました。

本年度も、昨年同様、厳しく査定するつもりです。本委員会の薬学総合演習単位認定に対する基本的姿勢は「この科目に合格した学生は、少なくとも、薬剤師国家試験に合格するのに必要な学力を有していることを同委員会が認める」ことに基づいて行っていることを是非了解してください。そして、このことを了解した上で、本年度は全員が単位修得出来るよう真剣に取り組んでください。また、本委員会は父兄との連絡を密に取って薬学総合演習を進めるつもりでいます。従って、学生諸君の成績を積極的に父兄に知らせると共に、成績不良者には注意を喚起し

ていただくつもりでいます。

最後に本委員会から学生諸君に申したいことがあります。それは、「どのような薬学総合演習をしようとも、また、講義担当者が誰であろうとも、学生諸君自ら国家試験対策に強い危機意識をもって望まなければ合格できない」ということです。国試合格のために本当に頼れるのは自分自身しかいないことを十分認識していただきたい。学生諸君は国試内容を理解するに必要な基礎知識は既に十分履修している事を認識し、各人が自分に最も適した国試対策計画表を作成し、この1年間、それに真剣に取り組んでいただきたい。薬学総合演習はそのための一助にしかすぎません。今後の日本経済は今までのような高度成長は見込めないと思います。それは、学生諸君にとって従来のような多方面（業種）への就職が容易でなく、厳しい状況が続くことを意味しています。即ち、就職の主流は薬剤師免許を必要とする職種に限定されてくると共に、薬学生もこのことに意識せざるを得なくなると思います。それ故、学生諸君にとっては薬剤師になって初めて一人前の社会人として活躍出来るということを自覚し、十分に腰を据えて国試対策に取り組むよう切望して止みません。就職してからの国試勉強は極めて困難であることを肝に銘じていただきたい。



1995年度薬学総合演習前期日程

—基礎薬学—

有：有機生薬系， 生：生化学衛生系， 分：物理分析系 を示す。

数字は授業内容を示す。

開 講 日	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限
5月13日 (土) B C	有 1 分 1	分 1 有 1		
5月20日 (土) B C	分 2 有 2	有 2 分 2		
5月27日 (土) B C	有 3 分 3	分 3 有 3		
6月3日 (土) B C	有 4 分 4	分 4 有 4		
6月10日 (土) B C	生 1 分 5	有 5 生 1		
6月17日 (土) B C	生 2 有 5	分 5 生 2		
6月24日 (土) B C	生 3 有 6	分 6 生 3		
7月1日 (土) B C	生 4 分 6	有 6 生 4		
7月8日 (土) B C	生 5 生 6	生 6 生 5		
7月21日 (金)	第 1 回総合試験 (第 1 日目)			
7月22日 (土)	第 1 回総合試験 (第 2 日目)			
9月16日 (土)	基礎薬学試験 (午後)			

後期は、9コマ (有機生薬系 5コマ, 生化学衛生系 3コマ, 予備1コマ) を予定。

B, C : 未修得科目の数により, A, B, Cの3クラスに分け, B, Cの2クラスに対し開講する。

Aクラスの学生は何れのクラスにも参加可。

1. 物質の構造と性質 (大項目)
 - A. 化学構造 (中項目)
 - a. 構造と名称 (小項目)
 - 有 1 (1) 基本的骨格 (医薬品化学, 命名法) (小項目)
 - 分 1 (2) 代表的な無機化合物と金属錯体
 - 有 2 (3) 立体異性体
 - B. 化学反応性
 - 分 1 a. 化学結合
 - 有 7 ~ 11 b. 基本的化学反応, c. 官能基などの基本的な反応性
 - C. 物理化学的性質
 - 分 2 a. 化合物の物性, b. 平衡, c. 溶液の性質
 - 分 3 d. 反応速度, e. 放射性同位元素の性質
 - D. 構造解析法
 - 分 4 a. 物理学的及び分光学的的方法
 - 有 3 (スペクトル解析)
 - E. 分離・精製法
 - 分 5 a. クロマトグラフ法, b. 電気泳動法
 - F. 定性・定量分析
 - 分 6 a. 化学的分析法
 - 有 7 ~ 11 定量
 - 分 5 確認反応
 - 分 3 b. 物理的分析法
 - 分 3 c. 免疫学的分析法
2. 天然医薬資源
 - A. 生薬及び天然由来の医薬品
 - 有 4 a. 日本薬局方収載の生薬
 - 有 5, 6 b. 天然由来の医薬品
3. 生体の構造と機能
 - A. 生体成分の構造と性質
 - 生 1 a. 糖質の構造と性質, b. 脂質の構造と性質, c. アミノ酸, ペプチド,
 - 生 2 タンパク質の構造と性質, d. 核酸の構造と性質
 - 生 2 e. ビタミンの構造と性質, f. 無機質, d. 酵素と酵素反応
 - B. 生体成分の代謝
 - 生 3 a. 糖質の代謝, b. 脂質の代謝, c. アミノ酸代謝
 - C. 細胞・器官の構造と機能
 - 生 4 a. 主要器官の構造と機能
 - 生 5 b. ウイルス・細胞, c. 細胞小器官
 - 生 6 d. 遺伝情報の複製と発現
 - (1) DNA, (2) RNA, (3) タンパク質
 - D. ホルモンと情報伝達
 - 生 7 a. ホルモン
 - 生 8 b. オータコイド, c. 情報伝達
 - E. 免疫
 - 生 9 a. 抗原と抗体



平成6年度就職状況報告

就職部長

教授 稲 森 善 彦

テレビ・新聞等の情報でも明らかなように、バブル経済の崩壊による不況の嵐が吹き荒れる中での就職活動でした。学生諸君はその嵐の中で、良識と節度のある就職活動をしてくださいました。そして、それぞれよく考えながら進路を決め、ほとんどの学生諸君が内定をいただき、実社会へ巣立って行きました。今こうして、就職状況報告書を書いておきますと、就任後一年間のきびしい就職戦線、その中でも内定をいただいた時の喜びがまるで走馬燈のように、まぶたに浮んでまいります。

平成6年度の就職・進学内定状況を表Iに示し、若干の説明を加えさせていただきます。就職未定者12名(就職を希望しない1名を除く)もそれぞれ受験し、その後内定をいただくか、内定待ちです。中には国家試験合格後考えるという卒業生もおります

(平成7年3月16日現在)。これら就職未定者も前年度の同時期(224名中14名)とほぼ類似の数字を示しております。しかしながら、内定いただきました内容を比較しますと、微妙な変化が見られます。

まず、MR希望者でございますが、男子は希望者数全体の内定が得られましたのに反し、女子のMRは希望者が40名であるのに対し11名(前年度17名)の内定と大変厳しい結果でございました。女子のMR希望者は恐らく今後益々増加し厳しい競争が予想されると思います。研究・開発ならびに品質管理の面でも前年度に比較して求人数が減少し、それに比例しまして、女子の内定数が25名(前年度36名)と減少しておりました。一方、病院・診療所の内定数は53名と前年度(40名)と女子では逆に増加しております。また、男子の内定数は前年度とほ

表I 平成6年度 就職・進学内定状況

(平成7年3月16日現在)

区 分		男子	%	女子	%	計	%
薬業 関連企業	営業	25	28.4	11	7.6	36	15.5
	研究・品質管理	6	6.8	20	13.8	26	11.1
	学術・開発	1	1.1	5	3.4	6	2.6
	管理薬剤師	0	0.0	4	2.8	4	1.7
	その他	2	2.3	1	0.6	3	1.3
薬局・小売		6	6.8	19	13.1	25	10.7
病院		7	8.0	53	36.6	60	25.7
研修生		2	2.3	15	10.4	17	7.3
公務員		2	2.3	4	2.8	6	2.6
進学(大学院)		31	35.2	7	4.8	38	16.3
就職未定者		6	6.8	6	4.1	12	5.2
合 計		88	100.0	145	100.0	233	100.0

ば同数でございました。薬局・小売でも女子に若干の増加が認められました。

公務員も男子は変わりませんが、女子の方では4名と前年度(13名)と比較して減少しておりますし、公務員試験の難しさを反映しております。大学院進学者は前年度とほぼ同数で、これも年々増加の傾向があります。今年の大学院学生の就職内定状況から見て、学生諸君にも2年後にはさらに厳しい就職戦線が待ち受けていますので、指導教授とよく相談し、後悔のない就職活動をしていただきたい。

不況の上に、薬価切下げなどもあり、薬学生をとりまく就職環境は年々厳しくなっていくと思います。それを乗り越える為には私共就職担当者のきめ細かい指導は必要な事は言うまでもありませんが、学生一

人一人が成績の良い上に、明るい、協調性のある人から好感の持たれることが最も大切と思います。

平成6年度の卒業生の就職活動が終り、ほっと息づく暇もなく、今度は平成7年度の学生諸君350名の就職活動がMR希望者を皮切りに開始されようとしています。一人でも多くの学生諸君が希望する就職先への内定がかなえられますように、微力ではございますが努力してまいりたいと思いますので、御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

御参考までに、42期生(平成7年3月卒業)の就職・進学内定一覧表を表Ⅱとして付け加えさせていただきます。

表Ⅱ 42期生(平成7年3月卒業)

就職・進学内定一覧

(平成7年度3月16日現在)

〔薬業関連企業・その他〕	男子		女子		男子		女子	
	内勤	営業	内勤	営業	内勤	営業	内勤	営業
15 三星堂	0	1	0	0	0	1	0	0
16 参天アラガン	0	0	0	0	0	0	1	0
17 三宝化学研究所	1	0	0	0	1	0	0	0
18 塩野義製薬	0	1	0	0	0	1	1	0
19 シオエ製薬	0	0	0	0	0	0	1	0
20 セブンツ-セブン	0	0	0	0	0	0	1	0
21 第一製薬	0	1	0	0	0	1	0	0
22 大日本製薬	0	3	0	0	0	3	1	1
23 武田薬品工業	0	1	0	0	0	1	0	0
24 帝人	0	0	0	0	0	0	0	1
25 東京田辺製薬	0	1	0	0	0	1	0	0
26 東西化学産業	1	0	0	0	1	0	0	0
27 富田製薬	0	0	0	0	0	0	1	0
28 日清製薬	0	0	0	0	0	0	1	0
29 日本イーライリリー	0	1	0	0	0	1	0	0
30 日本化薬	0	1	0	0	0	1	0	0
31 日本グラクソ	0	0	0	0	0	0	0	2
32 日本新薬	0	1	0	0	0	1	0	0
33 日本粉末薬品	0	0	0	0	0	0	1	0
1 旭化成工業	0	1	2	0				
2 エーザイ	0	1	0	1				
3 大阪造船所	0	1	0	0				
4 小野薬品工業	0	1	0	0				
5 オフテクス	1	0	1	0				
6 鐘紡	0	0	1	0				
7 協和発酵工業	0	1	0	0				
8 共和	1	0	0	0				
9 興和	0	1	0	0				
10 剂盛堂薬品	0	0	1	0				
11 堺化学工業	0	0	1	0				
12 笹岡薬品	0	0	1	0				
13 三共	0	2	0	1				
14 三星製薬所	0	0	1	0				

	男子		女子				男子	女子
	内勤	営業	内勤	営業				
					14 道 下 薬 局		1	0
34 日本ベリンガーインゲルハイム	0	1	0	0	15 みどり薬局		0	2
35 日本レダリー	0	1	0	0	16 メディカルー光		2	0
36 ノボノルディスクファーマ	1	0	0	0	合 計		6	19
37 バイエル薬品	0	0	0	3				
38 萬 有 製 薬	0	2	0	1	[病院]		男子	女子
39 菱 山 製 薬	0	0	2	0	1 青山第二病院		0	1
40 藤 本 製 薬	0	0	3	0	2 あびこ病院		0	1
41 扶桑薬品工業	0	0	1	0	3 石切生喜病院		0	1
42 堀井薬品工業	0	0	1	0	4 一本松病院		0	1
43 松本油脂製薬	0	0	1	0	5 上山病院		0	1
44 丸 石 製 薬	3	0	1	0	6 大野記念病院		0	1
45 マ ル ホ	0	0	1	0	7 大阪回生病院		1	0
46 明 治 製 菓	0	1	0	1	8 大手町病院		1	0
47 山之内製薬	0	1	0	0	9 大道会病院		0	1
48 ロ ー ト 製 薬	0	1	0	0	10 岡村一心堂病院		0	1
.					11 岡山協立病院		0	1
1 大阪労働衛生総合センター	1	0	0	0	12 貝塚サナトリウム		1	0
2 実験癌化学療法研究所	0	0	1	0	13 金 井 病 院		1	0
合 計	9	25	30	11	14 川 越 病 院		0	1
[薬局・小売]			男子	女子	15 関西医科大学附属病院		0	1
1 育 生 会			0	1	16 錦 秀 会 病 院		0	1
2 オ ダ 薬 局			0	2	17 久 米 田 病 院		0	1
3 協和調剤薬局			0	1	18 小 松 病 院		0	1
4 コ ク ミ ン			0	1	19 佐 藤 病 院		0	1
5 児 玉 薬 品			0	1	20 城 北 病 院		0	1
6 ジ ャ ス コ			0	4	21 城 山 病 院		0	1
7 セガミメディクス			1	1	22 新金岡豊川総合病院		0	1
8 ダ イ エ ー			0	2	23 成徳記念病院		0	2
9 チェーンストア オークワ			1	0	24 聖マリアンナ医科大学病院		0	1
10 同 仁 薬 局			0	1	25 聖隷浜松病院		0	1
11 ニチイ フォルサム事業部			1	1	26 瀬 戸 病 院		0	1
12 バ イ ア ス			0	1	27 蘇生会総合病院		0	1
13 広島調剤センター			0	1	28 蒼 生 病 院		0	1
					29 高 村 病 院		0	1

	男子	女子		男子	女子
30 ツヂ病院	0	1	6 広島大学	0	1
31 巽病院	0	1	7 和歌山県立医科大学	0	1
32 東和病院	1	0	合計	2	15
33 徳洲会病院	0	1			
34 鳥潟病院	0	1	〔公務員〕	男子	女子
35 中江病院	0	1	1 奈良県（県立病院）	0	2
36 中谷病院	0	1	・		
37 奈良春日病院	0	1	1 大阪市立大学医学部附属病院	0	1
38 西淀病院	0	2	2 藤井寺市民病院	1	0
39 日生病院	0	1	・		
40 野口病院	0	1	1 大淀町（大淀病院）	0	1
41 早石病院	0	1	2 木津町（山城病院）	1	0
42 阪堺病院	0	1	合計	2	4
43 東生駒病院	0	1			
44 福德医学会病院	0	1	〔進学（大学院）〕	男子	女子
45 藤本病院	0	1	1 大阪薬科大学	25	4
46 府中病院	0	1	2 岡山大学	1	0
47 邦和病院	0	2	3 京都大学	1	0
48 マキノ病院	1	0	4 神戸薬科大学	1	0
49 松下記念病院	0	1	5 徳島大学	1	1
50 水島中央病院	0	1	6 名古屋市立大学	0	2
51 三好病院	1	0	7 広島大学	1	0
52 八尾病院	0	1	8 三重大学	1	0
53 行岡病院	0	1	合計	31	7
54 淀川キリスト教病院	0	2			
55 若草第一病院	0	1			
56 渡辺病院	0	1			
合計	7	53			

〔研修生〕

	男子	女子
1 大阪大学	0	5
2 大阪市立大学	1	1
3 関西医科大学	0	1
4 京都大学	1	5
5 神戸大学	0	1



平成7年度学校法人予算について

事務局長 河野 光 次

去る平成7年3月16日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成7年度予算が審議のうえ承認されたので、消費収支予算書を掲載し、その概要を説明することとした。
(学生納付金)

平成6年度新入生数の増加および今年度の学費改定を反映し、前年度予算に比して約1億8000万円増の21億1000万円を計上した。

(補助金)

経常費補助金は、近年の減少傾向を反映し、前年度予算に比して4000万円減の2億1000万円を計上した。

(雑収入)

平成8年3月定年退職者の退職金に対する私立大学退職金財団からの交付金を約7000万円計上したた

め、前年度予算に比して約8000万円増の1億700万円となった。

(人件費)

平成8年3月定年退職者の退職金が約9000万円発生するため、平成7年度の退職給与引当金繰入額が2億2100万円となり、人件費の総額は、前年度予算に比して約1億7000万円増の14億7770万円となった。

(教育研究経費)

新キャンパス移転関連経費を9600万円計上したため、前年度予算に比して約9000万円増の6億4180万円となった。

(管理経費)

新キャンパス移転関連経費を1億1400万円計上したため、前年度予算に比して約1億1000万円増の2億690万円となった。

平成7年度消費収支予算書

[平成7年4月1日から
平成8年3月31日まで]

消費収入の部 (単位 円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	2,110,000,000	1,925,900,000	184,100,000
手数料	72,000,000	69,000,000	3,000,000
補助金	212,200,000	252,900,000	△ 40,700,000
資産運用収入	20,000,000	30,000,000	△ 10,000,000
事業収入	7,000,000	6,200,000	800,000
雑収入	107,000,000	24,300,000	82,700,000
総収入合計	2,528,200,000	2,308,300,000	219,900,000
基本金組入額合計	△ 657,000,000	△ 362,000,000	△ 295,000,000
消費収入の部合計	1,871,200,000	1,946,300,000	△ 75,100,000

消費支出の部 (単位 円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人件費	1,477,700,000	1,310,500,000	167,200,000
教育研究経費	641,800,000	553,100,000	88,700,000
管理経費	206,900,000	95,000,000	111,900,000
借入金等利息	280,000,000	228,600,000	51,400,000
[予備費]	30,000,000	30,000,000	0
消費支出の部合計	2,636,400,000	2,217,200,000	419,200,000
当年度消費支出超過額	765,200,000	270,900,000	
前年度繰越消費支出超過額	796,000,000	1,563,200,000	
翌年度繰越消費支出超過額	1,561,200,000	1,834,100,000	

学生課だより

■ 小野奨学会より再び表彰される

平成7年3月に卒業した岸田朋子さんは、(財)小野奨学会(小野智恵子理事長)より昨年に引き続き表彰されました。

同会は、毎年、成績が優秀であった者や課外活動で顕著な成績を納めた奨学生を表彰しています。

岸田さんは、4年間成績上位を維持しつづけたという理由で奨学生80名の中から選ばれました。

3月13日、森学生部長より表彰状と副賞(図書券)が手渡されました。



表彰後、岸田さんより次のようなコメントが寄せられました。

「大学生活の4年間奨学金でお世話になった小野奨学会には、それ以外にもいろいろな機会を与えていただきました。年に一度催される奨学生の集いでは普段はあまり接することのない他大学の方と話をすることができ、いろいろな刺激をうけることができました。又卒業にあたっては「社会人としての心構え」をテーマとした講演会に呼んでいただき社会に出る前の不安を取り除いていただきました。そしてこの講演から勤務先に対する考え方や自分自身のこれからの生き方を再度見直すことができました。大学4年間の私は小野奨学会の援助なくしてはなかったと思います。ありがとうございました。

後に続く後輩達には、勉学に励み与えられ機会を大事にされ、新たなる飛躍をされんことを期待します。」

■ 学生証の更新について

93で始まる学籍番号および91以前の学籍番号の学生には、4月1日から新しい学生証(青色)を交付しています。旧学生証と交換になるので、忘れないようにしてください。期限内に写真を提出していない学生は、5月1日以降の交付になります。

なお、新学生証は、高槻キャンパス移転の関係上、有効期限が平成8年3月31日までの1年間になっているので、今回の更新時に注意してください。

■ 新職員紹介

平成6年12月8日付で鶴田政樹職員、平成7年3月1日付で天道洋子職員が学生課へ配属になりました。現在窓口業務を中心に学生諸君と接していますので、よろしくお願ひします。

平成7年度 学友会執行委員会

執行委員長	池田 大佐③	(硬式野球部)
副執行委員長	宮原 大朗②	(バレーボール部)
総務局長	横山 路恵③	(弓道部)
副局長	矢守 輝久③	(柔道部)
会計	吉川 朋和③	(旅行写真部)
書記	高橋 亮治②	(コーラス部)
厚生局長	木村 佳葉③	(剣道部)
副局長	田中 健一③	(放送部)
渉外・広報局長	邑口 浩子③	(漢法医学研究部)
副局長	松本 幸子③	(上方落語研究部)
体育局長	宮腰 英貴③	(バスケットボール部)
副局長	岡田 昌彦②	(卓球部)
文化局長	近江 良泰③	(古美術研究部)
副局長	宮井 尚春②	(軽音楽部)

阪神・淡路大震災

— 被災学生相談室から —

平成7年1月17日夜明け前、今まで経験したことのない激しい揺れでたたき起こされた。1分間位揺れたであろうか。テレビをNHKに合わせたところ、淡路島の北部が震源地で、震度は大阪市5、奈良市4、神戸市は表示なしを伝えてきた。映像は大阪市の阪神高速道路環状線を映し出していたが普段と変わらない平穏で平和な風景であった。

その後、神戸や芦屋方面で、家屋やビルの倒壊、火災の発生、未確認であったが高速道路の倒壊など混乱している様子が報道された。

大変な事態が起きたと思い、学生課の職員に電話で早急に対応するよう指示しようと数回かけたが通じなかった。これは行動した方が早いと判断し大学に向ったが、最寄駅で近鉄電車のダイヤの混乱、連絡線のJRの不通を知った。仕方なく我が家に戻り車で向ったが大渋滞、早く着きたいとあせるがどうすることもできず、大学に到着したのは午後1時半であった。普段は1時間半位の道程を6時間要したことになる。

直ちに神戸方面に居住している学生の安否を確認するよう指示したが、電話が不通のところが多いため遅々として進まない。テレビやラジオからは被害拡大の情報ばかり入ってくる。テレビのブラウン管を通じては、被害地域の知りたいと思うことが余り伝わってこない。高速道路の横倒れになったところやヘリコプターからの画面からは、その近くに住んでいる人々がどんな状態にいるのかまったく判断できなかった。



学生の安否を尋ねるには、電話の他、学生を始め教職員からの情報提供が一番と判断、学友会執行部との会合、アドバイザー、クラブ顧問、科目担当、その他の教員からの情報を得た。幸いにも震災3日目に、一応全学生が無事であることを把握した。しかし、学生達は本当に無事なのだろうか。あせりといらだちが募るなかで、完全に全員の安全を確認できたのは、震災1週間後の1月24日であった。

窓口の学生課からは、家屋の損壊により避難生活を送りながら、家屋の跡片づけのため避難所と行き来している者。親戚、知人、友人宅や父親の赴任先に避難した者。家屋の倒壊で妹を亡くした者。落下物によって負傷した者。ライフラインの停止で避難し、水の運搬や買い出しに1日の大半を費いやさなければならぬ者。2次災害の恐れがあるため避難勧告を受けた者。被害は軽微であったが、被災した親戚や知人の家族を受け入れている家庭。等々の報告が入ってくる。

1月24日までに判明した被害状況は、家屋の全壊6名、半壊11名、一部損壊30名、負傷者1名、家族の死亡1名であった。

震災が丁度定期試験と重なったため試験のことを心配する者も多くいた。大学も早い時期に正確な被害状況、交通状況などを把握できず、試験の対応策に苦慮しながら3月上旬に定期臨時試験の実施を決定した。

今振り返ってみると、多少の混乱はあったものの、新聞紙上の安否の問い合せの掲載、被災学生への電話、郵便、掲示による連絡等、これらの措置は最良の方法を選択したと考えている。

被災した学生は興奮状態にあり、対応に配慮しつつ、彼らの悩みや心配事をひとつひとつ早く解決するため、対策会議を開催し、学生部と教務部の各教員の協力を得て、1月27日から被災学生相談室を開設

した。

震災から10日が経過し、被災学生も少し落ちついてはきていたが悩みは多岐にわたり、各教員には寝食を忘れて相談にのっていただいた。被災による収入の減少、失業等の経済問題。交通機関の停止による通学に関する事。宿泊場所の確保。避難生活での健康やストレスの問題。などについて各委員の先生方が自分自身の経験を交えて話していただき、学生諸君が抱えている不安を取り除いていただいたようである。

地震から2ヶ月以上が経過し、ようやく「復興」

という言葉が聞こえてくるようになりました。街全体が元の姿を取り戻そうとゆっくり動き始めています。失ってしまっ取り戻せないものも多いかもかもしれませんが、得ることもあったのではないのでしょうか。今まで気にも留めなかった隣人とのコミュニケーション、ボランティアの方の無償の愛情、人々の善意といったものなどがみつけれられたのではないのでしょうか。

最後になりましたが被災された皆様へのお見舞いと一日も早い復興をお祈りいたします。

(元学生部長 教授 森 逸男)



保健室だより

新学期がスタートし、2・3・4年次生は実習が始まり外科処置を要する事が多くなります。受傷した場合、直ぐ応急処置を行い来室してください。

☆薬品が手・眼等に付着した場合→すぐ流水で洗う。

☆薬品が口の中へ入った場合→頻回にうがいをする。

酸は重曹水で中和

アルカリは希薄な酢酸、クエン酸で中和

☆やけどをした場合→流水をそそぐようにして冷す。

最低5分以上は冷す。

水泡は破らない。

☆メス・ガラス器具等で切った場合

→切り口を流水で洗う。

ガラス等がないのを確かめ圧迫止血する。

☆器具で刺した・マウスに咬まれた場合

→傷口の周りを圧迫し血を絞りだし、流水で洗う。

※慌てず・騒がず・落ち着いて状況判断を！

※受傷がひどい時はすぐ来室の事！

1年次生は徐々に緊張がほぐれ、受験の疲れもで体調を崩す頃です。規則正しい生活と十分な栄養をとり学生生活を満喫してください。

また、6・9月は1年で最も食中毒が発生する月ですので食べ物には十分注意してください。その他、健康相談・指導等行っていますので気軽に訪問してください。

平成6年度保健室利用状況

月	利用者			利用内容					
	学生	教職員	小計	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	小計
4	89	11	100	18	22	51	8	1	100
5	65	14	79	21	36	16	5	1	79
6	171	26	197	47	56	90	4	0	197
7	115	23	138	16	35	83	4	0	138
8	26	8	34	3	8	23	0	0	34
9	56	22	78	15	13	47	3	0	78
10	96	18	114	21	54	29	9	1	114
11	81	23	104	21	57	19	7	0	104
12	60	19	79	18	43	12	6	0	79
1	33	27	60	8	42	9	1	0	60
2	27	37	64	7	38	13	6	0	64
3	15	27	42	6	29	3	4	0	42
合計	834	255	1089	201	433	395	47	3	1089

*外科系→ガーゼ交換・湿布交換を含む。

*健康指導・相談→健康診断書の発行・検尿・血圧測定・体温測定等含む。

大阪薬科大学ライフサイエンス業績：
全国45薬学系大学中第5位

— '96大学ランキング(朝日新聞社刊)などより—

大学や個々の研究者の研究業績を評価する試みが、自己評価、自己点検の普及とともに盛んになってきた。東京慈恵会医科大学医学情報センター(山崎茂明氏)は、次のような大学別全研究者論文生産係数を採用して、日本の医科大学や薬科大学の研究業績の全国比較をした(メデイカル朝日1, 2月号及び'96大学ランキング(朝日新聞社刊))(一部は学内既報)。

Medeline(収録雑誌数3700:93年1月~6月)に蓄積された生命科学専門外国文献から、第1位著者の所属先が日本国である論文を抽出、ついで大学別に分類し、大学別論文数を当該大学学部の教授から、助手、院生迄を含む全研究者数で割った数値が本係数である。

全国45薬学系大学の業績順位は以下の通り。

1 岡山大学薬学部	(係数) 0.63
2 九州大学薬学部	0.24
3 京都大学薬学部	0.24
4 岐阜薬科大学	0.23
5 大阪薬科大学	0.22
6 千葉大学薬学部	0.21
7 北海道大学薬学部	0.21
8 熊本大学薬学部	0.20
9 北陸大学薬学部	0.19
10 徳島大学薬学部	0.19
11 長崎大学薬学部	0.19
12 金沢大学薬学部	0.18
13 名古屋市立大学薬学部	0.17
14 東京大学薬学部	0.17

以下省略

(研究委員会委員長 教授 保坂康弘)

平成7年度『臨床医学講話』開催

教務部

薬剤師として必要な病気の成り立ちと診断の基準を理解し、薬物の適正な選択と使用に関わる素養を培う必要から、4年次において、『臨床医学講話』を開催します。これによって、本学の学生が、臨床医学(疾患の診断や治療)における基礎的な知識への理解を深めることを期待します。

平成7年度においては、下記のように、臨床医学に詳しい5名の先生方にご講演をお願いしています。それぞれの専門領域について、基礎的な話題をわかりやすくご講義いただきます。

記

- 5月26日(金)4時10分~5時30分—第34教室—
『心疾患の診断と治療』
関西医科大学(胸部外科学)
教授 今村 洋二
 - 6月2日(金)4時10分~5時30分—第34教室—
『気管支喘息とアレルギー』
大阪府立羽曳野病院
医務局長 露口 泉夫
 - 6月5日(月)1時10分~2時40分—第34教室—
『高血圧症の病態と治療』
大阪市立大学医学部(薬理学)
教授 岩尾 洋
 - 6月9日(金)4時10分~5時30分—第34教室—
『腎移植医療の必要性』
大阪市立大学医学部(泌尿器科学)
教授 岸本 武利
 - 6月23日(金)4時10分~5時30分—第34教室—
『老人医療の特徴』
大阪市立弘済院付属病院中央臨床検査部長
兼内科副部長 揖場 和子
- この機会に、教職員の方々のご参加を歓迎します。

教務課だより

■ 総合講座について

本年度の「総合講座1・2」は、以下のテーマで開講する。

『総合講座1』（1年次生後期）

総合テーマ：「ヒトの生命」

第1部「人間の生命と医療」

第2部「生命科学の人間観」

第3部「人間的生命とその世界」

『総合講座2』（2年次生前期）

総合テーマ：「人間と地球」

序 論「地球環境問題とは何か一課題の提起」

第1部「地球環境と生存」

第2部「薬害と環境」

第3部「環境と社会」

第4部「環境調和型社会の構築に向けて」

■ 基礎ゼミについて

本年度も以下の多彩なテーマで開講する。

（1年次生前期）

- ・「自然の恵みと人間」
- ・「風景と文化」
- ・「自然科学の基礎を築いた人々の足跡をたどる」
- ・「教育と教養」
- ・「漱石入門」
- ・「薬剤師国家試験の総合的点検」
- ・「現代社会と医療」
- ・「比較大学論」(What is University?)
- ・「医療とは？」
- ・「古事記の中の神話」
- ・「データ・プロセス」
- ・「医療における生と死」
- ・「生態と環境」(Ecology)
- ・「ガリヴァー旅行記」を読む

平成7年度大阪薬科大学入学試験結果の概要

区 分	推薦入試（一般公募制） （S方式）			大学入試センター試験利用入試 （C方式）			一般入試 （G方式）		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
募集人員 （男・女）	薬学部 計70名			薬学部 薬学科 10名 } 計20名 製薬学科 10名 }			薬学部 薬学科 75名 } 計150名 製薬学科 75名 }		
志 願 者	32	134	166	348	852	1,200	807	1,278	2,085
受 験 者	32	132	164	348	851	1,199	748	1,152	1,900
合 格 者	10	60	70	27	149	176	167	356	523
入 学 者	10	60	70	0	14	14	53	130	183
試 験 科 目 （配点）	〔外国語〕英語 90分 100点 〔小論文〕 90分 100点			〔数 学〕数 学 I 100点 数 学 II 100点 〔外国語〕英 語 200点 〔国 語〕国 語 200点 〔理 科〕物 理 200点 化 学 生 物 から1科目選択			〔数 学〕数 学 I 90分 100点 代 数・幾 何 基 礎 解 析 〔外国語〕英 語 II 90分 100点 英 語 II B 英 語 II C 〔理 科〕化 学 90分 100点		

学位授与

博士(薬学)

博第6号 青木 洋之(薬品分析学)(平成7年2月24日付)

三官能性試薬を固定化した陰イオン交換樹脂を用いる超微量金属イオンの原子吸光分析法の開発

博第7号 大蔵 直樹(生化学)(平成7年3月17日付)

毒ヘビ血漿由来ホスホリパーゼA₂阻害タンパク質に関する研究

論博第13号 友尾 幸司(平成7年1月27日付)
分泌性低分子量ホスホリパーゼA₂の構造化学的研究

論博第14号 山本 拓(平成7年1月27日付)
Thromboxane A₂ agonist, U-46619で誘発した新規実験的心筋虚血モデルに関する研究

論博第15号 長廻 貞雄(平成7年3月17日付)
メキシレチンの Therapeutic Drug Monitoring (TDM) における唾液中薬物濃度利用に関する研究

論博第16号 浦田 秀仁(平成7年3月17日付)
L-ヌクレオシドを含むオリゴヌクレオチドの合成およびその構造と機能に関する研究

~~~~~

### 修士(薬学)(平成7年3月17日付)

修第210号 天形 太郎(薬化学)  
海洋生物由来の真菌の細胞毒性代謝産物に関する研究

修第211号 柳井 雅之(生薬学)  
コリアンダー *Coriandrum sativum* L. の全草の成分に関する研究

修第212号 乾 真紀子(生薬学)  
生薬由来のサッカラーゼ阻害物質に関する研究

修第213号 北川 智(生薬学)  
コウゾ (*Broussonetia kazinoki* Sieb.) のアルカロイド成分に関する研究

修第214号 村井 良彦(薬品製造学)  
イミダゾール C-ヌクレオシドの立体選択的合成

修第215号 角森 正英(衛生化学)  
ウサギ血小板におけるアラキドン酸代謝に対する脂質関連物質の影響に関する研究

修第216号 井上 文平(生化学)  
*Bacillus cereus* 菌 [IAM 1208] 由来スフィンゴミエリナーゼの触媒機構の解明

修第217号 北原 佳也(生化学)  
エラブウミヘビ血漿由来ホスホリパーゼA<sub>2</sub>阻害タンパク質 (PLI- $\gamma$ ) の構造と基本的性質

修第218号 田原 康弘(生化学)  
マノアライド類縁化合物によるホスホリパーゼA<sub>2</sub>の不活性化反応

修第219号 徐 紅(微生物学)  
インフルエンザウイルスの呼吸組織外への伝播の研究

—PCR法によるインフルエンザウイルス遺伝子診断技法の患者白血球への応用—

修第220号 大野 裕史(微生物学)  
海洋から分離した真菌 (*Penicillium crustosum*) の産生するプロテアーゼの精製と性質

修第221号 東郷 武憲(薬剤学)  
Carbopol ゲルを用いたインスリンの経口投与製剤の設計

修第222号 成岡 浩二(薬剤学)  
リポソーム化製剤の経口投与への応用に関する研究

修第223号 西出 貴義(薬剤学)  
アルギニン・バソプレッシンの薬理効果を指標としたバイオアベイラビリティの算定

修第224号 石合 徹也(薬理学)  
プロテアソームに対するアンスラサイクリン系抗生物質の阻害作用に関する研究

修第225号 前川 仁志(薬理学)  
腎神経刺激による腎機能変化及びノルエピネフリン遊離に対するニトロプルシッドナトリウムの影響

修第226号 村田 聡(薬理学)  
血小板による培養血管内皮細胞からのエンドセリン-1産生促進作用における Transforming growth factor- $\beta_1$  の役割

修第227号 安達 崇 (薬理学)

ラット腎虚血一再灌流によるミトコンドリアの機能およびグルタチオン低下におけるカルシウムの関与

修第228号 田村 泰久 (薬理学)

癌原性物質を代謝的活性化するヒト及びマウス腎 P450 の分子生物学的研究

修第229号 濱口 晃規 (薬理学)

高血圧ラットの腎臓におけるβ1型トランスフォーミング増殖因子 (TGF-β1) の発現および形質変換の役割

修第230号 播川 道德 (薬品分析学)

シスプラチン耐性癌に有効な白金 (II) 二核錯体に関する研究

修第231号 河合 央博 (薬品物理化学)

グアニン塩基とトリプトファンとの相互作用に及ぼす白金の影響

修第232号 川本 栄治 (薬品物理化学)

補酵素 PQQ と tryptophan の adduct の構造解析とその生理作用の解明

修第233号 篠崎 史義 (薬品物理化学)

アシジアサイクラマイド誘導体の合成と構造-活性相関について

修第234号 中村 匡宏 (薬品物理化学)

ウシ膵臓由来トリプシンと阻害剤との相互作用様式に関する構造化学的研究

修第235号 迫間 久義 (薬品物理化学)

ヒト eIF-4E におけるアミノ酸変換蛋白質を用いた mRNA キャップ構造認識機構の研究

修第236号 堀 博行 (放射薬品学)

新規放射性医薬品による脳内ムスカリン性アセチルコリンレセプターマッピングの可能性について

学士 (薬学) (平成7年3月18日付)

薬第3364号～薬第3484号 薬学科 121名  
製第2647号～製第2758号 製薬学科 112名

平成7年度大学院薬学研究科博士前期 (修士)課程入学試験結果

| 区分   |   | 志願者 | 合格者 | 入学者 |
|------|---|-----|-----|-----|
| 1次募集 | 男 | 29  | 27  | 23  |
|      | 女 | 10  | 8   | 4   |
|      | 計 | 39  | 35  | 27  |
| 2次募集 | 男 | 4   | 4   | 3   |
|      | 女 | 1   | 1   | 1   |
|      | 計 | 5   | 5   | 4   |
| 合計   | 男 | 33  | 31  | 26  |
|      | 女 | 11  | 9   | 5   |
|      | 計 | 44  | 40  | 31  |

※平成7年4月1日付で、本学大学院薬学研究科 (薬学専攻) 博士前期課程の定員は次の通り改定になりました。

入学定員 16名 → 入学定員 30名

収容定員 32名 → 収容定員 60名

第80回薬剤師国家試験結果

試験期日：平成7年4月2日(日)～3日(月)

合格発表：平成7年4月27日(木)

| 区分  | 受験者   | 合格者   | 合格率   |
|-----|-------|-------|-------|
| 新卒  | 231   | 216   | 93,51 |
|     | 7,339 | 6,110 | 83,25 |
| その他 | 88    | 41    | 46,59 |
|     | 2,356 | 1,075 | 45,63 |
| 総数  | 319   | 257   | 80,56 |
|     | 9,695 | 7,185 | 74,11 |

・新卒とは平成7年3月18日卒業者であり、合格率93.51%は全国第1位である。

・各区分の上段は本学、下段は私立薬系大学 (29) のデータである。

## 久保田晴寿学長ご退職

久保田晴寿学長は、平成3年4月1日に就任になり、このたび、平成7年3月31日をもって退職されることになりました。3月24日(金)には、本学学生会館・食堂において、退職記念パーティーが開催されました。

席上、まず大村理事長より、久保田学長のご功績を賛え4年間の本学に対するご尽力に対して謝辞が述べられた後、教職員を代表して田中教授より挨拶があった。続いて、久保田学長より退任のご挨拶の後、森教授の発声で乾盃し、開始されました。和やかな雰囲気のもとに歓談

が進み、最後に秘書より学長に花束が贈呈され、盛大な拍手のうちにパーティーは終了しました。

久保田先生の多大なご尽力に感謝いたしますと共に、先生のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。



## 人事異動

### ■法人人事

- ◇理事就任(平成6年9月16日付)  
梶川 益美(任期3年)
- ◇理事退任(平成7年3月31日付)  
久保田 晴寿

### ■学内人事

- 学長事務取扱(平成7年4月1日付)  
森本 史郎(教授)

### 併任(平成7年4月1日付)

- 教務部長 沼田 敦(教授) 任期2年
- 学生部長 土井 勝(教授) 任期2年
- 研究委員長 保坂 康弘(教授) 任期1年  
(平成7年4月25日～平成9年3月31日)
- 学生部長 望月伸三郎(教授)

### 昇任(平成7年4月1日付)

- 助教授 楠瀬 健昭(英語)

### 採用(平成6月12月8日付)

- 事務職員 鶴田 政樹(学生課)  
(平成7年1月1日付)
- 新築工事 山崎 修(高槻校地・囑託)  
事務所長
- 事務職員 川端奈緒子(庶務課)  
(平成7年2月1日付)
- 事務職員 天道 洋子(施設課)  
(平成7年4月1日付)
- 助手 和田 俊一(医薬品化学教室)
- 事務職員 讀木眞理子(図書課)

### 配置換(平成7年3月1日付)

- 永口 憲子(施設課事務職員・庶務課より)
- 村田 祐子(教務課事務職員・庶務課より)
- 三角 智津(庶務課事務職員・教務課より)
- 天道 洋子(学生課事務職員・施設課より)

嘱 託 (平成7年4月1日付 期間1年)

森本 史郎 (教授)

塚本 好子 (助手)

招へい教授 (平成7年4月1日付 期間1年)

富田 研一 (客員研究員)

林 恭三 (客員研究員)

退 任 (平成7年3月31日付)

久保田晴寿 (学長・任期満了)

千熊 正彦・教務部長 (任期満了)

森 逸男・学生部長 (任期満了)

保坂 康弘・研究委員長 (任期満了)

辞 任 (平成7年4月24日付)

土井 勝・学生部長

定年退職 (平成7年3月31日付)

森本 史郎 (教授)

退 職 (平成6年12月31日付)

堀 勝美 (学生課事務職員)

(平成7年3月31日付)

井田 智子 (化学第一教室助手)

解 嘱 (平成7年3月31日付)

森下 利明 (教授)

讚木眞理子 (図書課事務職員)

松島 哲久助教授 (哲学)

<出張期間:平成6年5月29日~6月5日>

フランス・パリにて開催の第1回国際医学医療

哲学会で発表

松村 靖夫助教授 (第一薬理学教室)

<出張期間:平成6年6月18日~6月27日>

フランス・オーゾアで開催のジャック・モノー

Conferences 1994で講演

保坂 康弘教授 (第二微生物学教室)

<出張期間:平成6年7月16日~7月30日>

フランス・パリで開催の第13回国際電子顕微鏡

会議に参加。又、ドイツ・ハイデルベルクにて

ヨーロッパ分子生物学研究所も訪問

玄番 宗一教授 (第二薬理学教室)

<出張期間:平成6年7月19日~8月2日>

カナダ・モントリオールで開催の第12回国際薬

理学会会議で発表。又、アメリカ・ニューヨー

クで開催の第2回国際イミダゾリンシンポジウ

ムに参加

藤田 直教授 (第一衛生化学教室)

高岡 昌徳助手 (第一薬理学教室)

<出張期間:平成6年7月23日~7月31日>

カナダ・モントリオールで開催の第12回国際薬

理学会会議で発表

千熊 正彦教授 (第一分析化学教室)

<出張期間:平成6年9月4日~9月10日>

中国・北京で開催の第20回国際フッ素研究学会

に参加

松村 靖夫助教授 (第一薬理学教室)

<出張期間:平成7年4月23日~4月28日>

イギリス・ロンドンで開催の第4回国際エンド

セリン会議で発表



## 海 外 出 張

春沢 信哉助教授 (第一薬品製造学教室)

<出張期間:平成6年3月12日~3月19日>

Dr. Robert. A. Holton 教授 (フロリダ州立

大学) の招待により、アメリカ・サンディエゴ

での ACS annual meeting に参加

## 施設課だより

### ■河合薬用植物園及びテニスコートの移設について

平成8年4月の高槻市への全面移転事業の一環として、理事会で承認されました売却予定地の両施設の移設工事を、下記のとおり完了しましたので、その概要を報告します。

#### 記

#### (1) 薬用植物園

<工期> 平成6年11月24日～平成6年12月23日

<場所> 南実習棟南側芝生地（主に草類）

野遠グランド薬用植物園（主に中低木）

※管理室および倉庫用のプレハブハウスを本学運動場南側砂場付近（単車置場の東側）に設置。

#### (2) テニスコート

<工期> 平成7年1月10日～平成7年1月25日

<場所> 野遠グランド管理棟前（2面新設）

女子寮コート（1面改修）



### ■実験動物慰霊祭

平成6年12月17日（土）、34教室において日頃実験動物に関係する教職員、学生約100名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われた。

## 図書館だより

### ■ CD-ROM の利用について

現在稼働中の CD-ROM 版（「CD-ROM 版 第12改正 日本薬局方解説書」, 「Dictionary of Natural Products on CD-ROM」, 「Chemical Abstracts 12th Collective Index on CD-ROM」）に加え、従来フロッピーディスク版で利用してきました「Current Contents (Life Sciences)」を CD-ROM 版に切り換え、平成7年2月より追加導入しました。これにより CD-ROM による図書資料の検索が一層充実したものとなります。

利用頻度としては、今回導入した「Current Contents (Life Sciences) CD-ROM 版」が最も高く、毎日のように教員及び学生が利用しています。その理由としてフロッピーディスク版では文献検索が遡及約4ヶ月前迄しかできなかったが、CD-ROM 版では1年前の検索が可能になったことが大きな要因として考えられます。その他、抄録がついて画面も見やすく、物質名や著者、雑誌名等を入力して短時間に検索できるということで非常に便利な機能となっており、利用者の評判も上々です。

なお、利用に際してはトラブル防止の為1階カウンターに申し出て、利用者氏名、利用時間等をノートに記入して頂くことにしていますので、ご協力ください。

また、CD-ROM 利用に際して使い方等不明な点があれば、遠慮なく係員におたずねください。





## 学位記授与式・卒業式

平成7年3月17日(金)、本学24教室において、平成6年度大阪薬科大学大学院学位記授与式(修士課程27名、博士後期課程1名、論文博士2名)が挙行された。

また、平成7年3月18日(土)、本学体育館において、第42回大阪薬科大学薬学部卒業式(233名)が来賓、父兄多数参列のもとに挙行された。



## 入学式

平成7年4月6日(木)、平成7年度大阪薬科大学および大学院入学式(学部268名、大学院修士課程31名、博士後期課程2名)が来賓、父兄多数参列のもとに挙行された。



## 平成7年度 前期行事予定

- 4月2日(日) } 第80回薬剤師国家試験(学説・実地)
- 4月3日(月)
- 4月6日(木) 入学式(学部・大学院)
- 4月7日(金) 新入生ガイダンス・アドバイザー面談
- 4月8日(土) 校医講演・新入生健康診断
- 4月10日(月) 前期授業開始  
就職ガイダンス・薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
- 4月14日(金) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の女子)
- 4月21日(金) 前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切(教務課)、基礎ゼミ(1年次生)受講希望願提出締切(教務課)
- 4月24日(月) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の男子)  
新入生奨学金ガイダンス
- 4月27日(木) 第80回薬剤師国家試験合格者発表
- 5月9日(火) 創立記念日(休業)
- 5月12日(金) 新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
- 6月3日(土) 第2回市民講座
- 6月17日(土) 学生会ソフトボール大会
- 7月7日(金) 前期授業終了(4年次生)
- 7月10日(月) } 4年次生前定期試験(4年次科目)
- 7月20日(木)
- 7月21日(金) 試験欠席届(4年次生・4年次科目)提出締切(教務課)
- 7月21日(金) } 第1回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 7月22日(土)
- 7月22日(土) 前期授業終了(1~3年次生)  
就職ガイダンス(4年次生)
- 7月23日(日) } 夏季休業
- 9月12日(火)
- 8月22日(火) 平成8年度大学院修士課程入学試験
- 9月1日(金) } 4年次生前定期試験(1~3年次未修得科目)
- 9月12日(火)
- 9月13日(木) 試験欠席届(4年次生・1~3年次未修得科目)提出締切(教務課)
- 9月13日(木) } 第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 9月14日(木)
- 9月13日(木) } 前期定期試験(1~3年次生)
- 9月28日(木)
- 9月18日(月) 後期授業開始(4年次生)
- 9月18日(月) } 前期追試験(4年次生)
- 9月26日(火)
- 9月28日(木) 就職ガイダンス(3年次生)
- 9月29日(金) 前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切(教務課)

平成7年度  
各部・委員会・委員

◎各部署の長

(平成7年6月1日現在)

教務部

◎沼田 敦(教授)  
馬場きみ江(助教授) 松島 哲久(助教授)  
松村 靖夫(助教授) 藤本 陽子(助教授)  
辻坊 裕(助教授) 大桃 善朗(助教授)

学生部

◎望月伸三郎(教授)  
木村捷二郎(助教授) 松村 瑛子(助教授)  
藤田 芳一(助教授) 春沢 信哉(助教授)  
楠瀬 健昭(助教授)

就職部

◎稲森 善彦(教授)  
藤田 直(教授) 松村 瑛子(助教授)  
辻坊 裕(助教授) 大桃 善朗(助教授)

図書館

◎藤田 直(教授)  
三野 芳紀(助教授) 藤田 芳一(助教授)  
楠瀬 健昭(助教授)

学生寮

◎望月伸三郎(教授)  
馬場きみ江(助教授) 濱中久美子(助教授)  
藤本 陽子(助教授)

薬用植物園

◎草野源次郎(教授)  
松永 春洋(教授) 沼田 敦(教授)  
馬場きみ江(助教授) 木村捷二郎(助教授)  
三野 芳紀(助教授) 西野 隆雄(講師)  
喜多 俊二(助手) 谷口 雅彦(助手)  
芝野真喜雄(助手) 森本 武司(事務局次長  
施設課長)

実験動物センター運営委員会

◎玄番 宗一(教授)  
藤田 直(教授) 池田 潔(教授)  
保坂 康弘(教授) 掛見 正郎(教授)  
松村 瑛子(助教授) 松村 靖夫(助教授)  
安田 正秀(講師) 西野 隆雄(講師)

総務委員会

◎森本 史郎(学長事務取扱)  
沼田 敦(教授) 藤田 直(教授)  
栗原 拓史(教授) 池田 潔(教授)  
望月伸三郎(教授) 稲森 善彦(教授)  
石田 寿昌(教授) 河野 光次(事務局長)

施設委員会

◎森本 史郎(学長事務取扱)  
森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)  
藤田 直(教授) 栗原 拓史(教授)  
池田 潔(教授) 石田 寿昌(教授)  
千熊 正彦(教授) 河野 光次(事務局長)

研究委員会

◎保坂 康弘(教授)  
森本 一洋(助教授) 大桃 善朗(助教授)

大学院小委員会

◎森 逸男(教授)  
栗原 拓史(教授) 保坂 康弘(教授)

RI施設運営委員会

◎田中 千秋(教授)  
森本 史郎(教授) 沼田 敦(教授)  
藤田 直(教授) 保坂 康弘(教授)  
玄番 宗一(教授) 稲森 善彦(教授)  
石田 寿昌(教授) 千熊 正彦(教授)  
草野源次郎(教授) 掛見 正郎(教授)  
木村捷二郎(助教授) 河野 光次(事務局長)

動物実験委員会

◎池田 潔(教授)  
藤田 直(教授) 保坂 康弘(教授)  
玄番 宗一(教授) 掛見 正郎(教授)  
松村 瑛子(助教授) 松村 靖夫(助教授)  
安田 正秀(講師) 西野 隆雄(講師)  
伊藤 美雄(庶務課長)

組換えDNA実験安全委員会

◎保坂 康弘(教授)  
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)  
池田 潔(教授) 稲森 善彦(教授)  
石田 寿昌(教授) 松島 哲久(助教授)  
黒田 和道(助教授) 細川 康(学外)  
伊藤 美雄(庶務課長)

バイオハザード予防委員会

◎稲森 善彦(教授)  
田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)  
保坂 康弘(教授) 松村 瑛子(助教授)  
安田 正秀(講師)

**環境保全委員会**

田中 千秋 (教授) 池田 潔 (教授)  
 保坂 康弘 (教授) 玄番 宗一 (教授)  
 稲森 善彦 (教授) 森本 武司 (事務局次長  
 施設課長)

**防火対策委員会**

沼田 敦 (教授) ◎森本 史郎 (学長事務取扱)  
 望月伸三郎 (教授) 栗原 拓史 (教授)  
 河野 光次 (事務局次長) 森本 武司 (事務局次長  
 施設課長)  
 伊藤 美雄 (庶務課長) 高橋 正好 (教務課長)  
 井頭 八郎 (学生課長)

**情報処理室運営委員会**

沼田 敦 (教授) ◎石田 寿昌 (教授)  
 保坂 康弘 (教授) 望月伸三郎 (教授)  
 掛見 正郎 (教授) 土井 勝 (教授)  
 大石 宏文 (助手) 土井 光暢 (助教授)  
 井頭 八郎 (学生課長) 高橋 正好 (教務課長)

**大型共同機器整備計画委員会**

沼田 敦 (教授) ◎保坂 康弘 (教授)  
 土井 勝 (教授) 藤田 直 (教授)  
 木村捷二郎 (助教授) 石田 寿昌 (教授)  
 三野 芳紀 (助教授) 松村 瑛子 (助教授)

**建設委員会**

森本 史郎 (教授) ◎栗原 拓史 (教授)  
 池田 潔 (教授) 沼田 敦 (教授)  
 河野 光次 (事務局次長) 石田 寿昌 (教授)

**人権委員会**

森 逸男 (教授) ◎望月伸三郎 (教授)  
 稲森 善彦 (教授) 沼田 敦 (教授)  
 松島 哲久 (助教授) 阿部 功 (助教授)  
 井頭 八郎 (学生課長)

**自己評価検討委員会準備委員会**

森 逸男 (教授) ◎森本 史郎 (学長事務取扱)  
 藤田 直 (教授) 沼田 敦 (教授)  
 望月伸三郎 (教授) 碓井 信二 (教授)  
 木村捷二郎 (助教授) 保坂 康弘 (教授)  
 松村 瑛子 (助教授)

**入試委員会**

森 逸男 (教授) ◎森本 史郎 (学長事務取扱)  
 碓井 信二 (教授) 沼田 敦 (教授)  
 千熊 正彦 (教授) 望月伸三郎 (教授)

**入試制度委員会**

掛見 正郎 (教授) ◎藤田 直 (教授)  
 加藤 義春 (助教授) 阿部 功 (助教授)  
 辻坊 裕 (助教授) 藤田 芳一 (助教授)  
 黒田 和道 (助教授)

**医療薬学実習委員会**

千熊 正彦 (教授) ◎掛見 正郎 (教授)  
 馬場さき江 (助教授) 赤木 昌夫 (助教授)  
 三野 芳紀 (助教授) 中元 安雄 (助教授)  
 西野 隆雄 (講師) 森本 一洋 (助教授)

**薬剤師国家試験対策委員会**

森本 史郎 (教授) ◎石田 寿昌 (教授)  
 中元 安雄 (助教授) 沼田 敦 (教授)  
 辻坊 裕 (助教授) 三野 芳紀 (助教授)  
 西野 隆雄 (講師) 安田 正秀 (講師)

**薬学教育検討委員会**

松永 春洋 (教授) ◎森 逸男 (教授)  
 碓井 信二 (教授) 藤田 直 (教授)  
 掛見 正郎 (教授)

**公開教育講座委員会**

森本 史郎 (教授) ◎掛見 正郎 (教授)  
 石田 寿昌 (教授) 玄番 宗一 (教授)  
 森本 一洋 (助教授) 中元 安雄 (助教授)  
 西野 隆雄 (講師)

**市民講座委員会**

保坂 康弘 (教授) ◎掛見 正郎 (教授)  
 松島 哲久 (助教授) 玄番 宗一 (教授)  
 西野 隆雄 (講師) 土井 光暢 (助教授)

**広報委員会**

木村捷二郎 (助教授) ◎藤田 直 (教授)  
 北氏 明正 (事務局次長  
 図書課長) 藤本 陽子 (助教授)  
 伊藤 美雄 (庶務課長)

# 教員研究業績一覽 (1994年)

(1994. 1. 1 ~ 12. 31)

## 1. 研究學術論文

| 著者                                          | 題目                                                                                                                                                                                  | 掲載誌                                          |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 尹 康子, 土井光暢,<br>井上正敏, 石田寿昌, 他                | Patellamide A, a cytotoxic cyclic peptide from the ascidian <i>lissoclinum patella</i>                                                                                              | Acta Crystallogr., C, 50, 432 (1994)         |
| 尹 康子, 土井光暢,<br>石田寿昌, 他                      | Structure of ascidiacyclamide as the ethanol water solvate, a cytotoxic cyclic peptide from <i>ascidian</i>                                                                         | Acta Crystallogr., C, 50, 2015 (1994)        |
| 樽井麻理子, 土井光暢,<br>石田寿昌, 井上正敏, 他               | DNA-binding characterization of a novel anti-tumor benzo[a]phenazine derivative NC-182: spectroscopic and viscometric studies                                                       | Biochem. J., 304, 271 (1994)                 |
| 松本慶太, 石田寿昌, 他                               | Clarification of substrate specificity of papain by crystal analyses of complexes with covalent-type inhibitors                                                                     | Biochim. Biophys. Acta., 1208, 268 (1994)    |
| 石田寿昌, 尹 康子, 他                               | Stereochemistry of a novel macrodiolide antibiotic IKD-8344                                                                                                                         | Chem. Lett., 1321 (1994)                     |
| 石田寿昌, 他                                     | Chemical transformation of terpenoids. X. ionophoretic activities of macrocyclic lactone epoxidized synthesized from geraniol                                                       | Chem. Pharm. Bull., 42, 293 (1994)           |
| 石田寿昌, 戸田由紀子,<br>樽井真理子, 土井光暢,<br>井上正敏        | Recognition of a nucleic acid base by tryptophan-containing peptides: spectroscopic comparison of the interaction of Trp-Gly-Gly-Glu and Trp-Gly-Gly-Gln with 7-Methyl-guanine Base | Chem. Pharm. Bull., 42, 674 (1994)           |
| 石田寿昌, 尹 康子, 他                               | Crystal structure of (-)-corycavinium (+)-10-camphorsulfonate, a biosynthetic intermediate to hexahydrobenzo[c]phenanthridine alkaloids                                             | Helv. Chim. Acta., 77, 243 (1994)            |
| 土井光暢, 石部厚夫,<br>篠崎文義, 浦田秀夫,<br>井上正敏, 石田寿昌, 他 | Conserved and novel structural characteristics of enantiomeric Leu-enkephalin: X-ray crystal analysis of Leu-enkephalin L-Tyr-Gly-Gly-L-Phe-L-Phe and D-Tyr-Gly-Gly-D-Phe-D-Leu     | Int. J. Peptide Protein Res., 43, 325 (1994) |
| 瀬川元住, 大野保則,<br>土井光暢, 井上正敏,<br>石田寿昌, 他       | Comparative conformational analyses of $\mu$ -selective dermorphin and $\delta$ -selective deltorphin-II in aqueous solution by $^1\text{H-NMR}$ spectroscopy                       | Int. J. Peptide Protein Res., 44, 295 (1994) |
| 土井光暢, 尹 康子,<br>井上正敏, 石田寿昌, 他                | Characteristic molecular packing in the crystal structure of <i>tert</i> -butoxycarbonyl-L-phenylalanyl-L-methionine methyl ester                                                   | Int. J. Peptide Protein Res., 44, 532 (1994) |
| 森野重信, 安井将展,<br>土井光暢, 井上正敏,<br>石田寿昌, 上田仁司, 他 | Direct expression of a synthetic gene in <i>Escherichia coli</i> : purification and physico-chemical properties of human initiation factor 4E                                       | J. Biochem., 116, 687 (1994)                 |

| 著 者                                                    | 題 目                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 掲 載 誌                                                       |
|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 長田裕臣, 土井光暢,<br>井上正敏, 石田寿昌, 他                           | Conformational analysis of the cyclised pyridoxal schiff base of L-tryptophan. X-ray crystal structure, nuclear magnetic resonance and molecular orbital studies of 3-carboxy-1- (3-hydroxy-2-methyl-5- [ [ phosphonooxy ] methyl]-4-pyridyl)-1,2,3,4,-tetrahydro- $\beta$ -carboline | J. Chem. Soc. Perkin Trans., 2, 984 (1994)                  |
| 藤川昭彦, 尹 康子,<br>井上正敏, 石田寿昌, 他                           | X-ray and NMR conformational study of aureobasidin E: a cyclic depsipeptide with potent antifungal activity                                                                                                                                                                           | J. Org. Chem., 59, 570 (1994)                               |
| 友尾幸司, 大石宏文,<br>石田寿昌, 井上正敏,<br>池田 潔, 他                  | X-ray crystal structure and molecular dynamics simulation of bovine pancreas phospholipase A <sub>2</sub> -n-dodecylphosphorylcholine complex                                                                                                                                         | Protein: Structure, Function, and Genetics., 19, 330 (1994) |
| 大石宏文, 辻坊 裕,<br>井上正敏, 稲森善彦                              | Stable conformations of hinokitiol and tropolone                                                                                                                                                                                                                                      | Acta Cryst., C, 50, 578 (1994)                              |
| 大石宏文, 他                                                | Pummerer-type cyclization of arnstein tripeptide analogues induced by o-silylated ketene acetals: studies of penicillin biosynthesis                                                                                                                                                  | J. Am. Chem. Soc., 116, 5116 (1994)                         |
| 大石宏文, 他                                                | Chirality preservation of a cation-radical intermediate. Tandem oxidative ring expansion ... cyclization reaction of optically active bicyclo (4.1.0) heptyl sulfides                                                                                                                 | J. Org. Chem., 59, 4727 (1994)                              |
| 藤田芳一, 森 逸男,<br>豊田美奈子, 松尾敬子                             | Spectrophotometric determination of hydrogen peroxide using o-hydroxyhydroquinone-phthalein, titanium (IV) and ethylenediaminetetraacetic acid                                                                                                                                        | Anal. Sci., 10, 827 (1994)                                  |
| 森 逸男, 松尾敬子,<br>藤田芳一, 豊田美奈子,<br>市谷健一, 井上典子              | Spectrofluorometric determination of thallium (III) with pyrogallol red and 3,4,5,6-tetrachlorofluorescein                                                                                                                                                                            | Fresenius J. Anal. Chem., 348, 346 (1994)                   |
| 森 逸男, 豊田美奈子,<br>藤田芳一, 松尾敬子,<br>田口一彦                    | Preconcentration of 1-(2-pyridylazo)-2-naphthol-Iron (III)-capriquot on a Membrane filter, and third-derivative spectrophotometric determination of iron(III)                                                                                                                         | Talanta, 41, 251 (1994)                                     |
| 青木洋之, 中村きぬ代,<br>千熊正彦, 他                                | キレート生成樹脂を用いる尿中の全セレンおよび全テルルの分離と黒鉛炉原子吸光分析                                                                                                                                                                                                                                               | Biomed. Res. Trace Elements, 5, 253 (1994)                  |
| 佐藤卓史, 千熊正彦,<br>大植真紀子, 半井達弥,<br>市川佳代, 北岸一美,<br>村上なお美, 他 | Determination of trace amounts of albumin in human bronchoalveolar lavage fluids by fluorometry with chromazurol S                                                                                                                                                                    | Clin. Chim. Acta., 229, 37 (1994)                           |
| 齊藤睦弘, 千熊正彦, 他                                          | Isolation and characterization of thiosalicylic acid selenotrisulfide                                                                                                                                                                                                                 | Fresenius J. Anal. Chem., 348, 776 (1994)                   |
| 大桃善朗, 平田雅彦,<br>田中千秋, 他                                 | Radioiodinated N-(2-aminoethyl)-2-chloro-4-iodo-benzamide: a new ligand for monoamine oxidase B studies with single photon emission computed tomography.                                                                                                                              | Chem. Pharm. Bull., 42, 913 (1994)                          |
| 大桃善朗, 田中千秋, 他                                          | Maleimidoethyl 3-(tri-n-butylstannyl) hippurate: a useful radioiodination reagent for protein radiopharmaceuticals to enhance target selective radioactivity localization.                                                                                                            | J. Med. Chem., 37, 2609 (1994)                              |

| 著 者                                                | 題 目                                                                                                                                                                         | 掲 載 誌                                           |
|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 木村捷二郎, 泰松明子,<br>遠藤 朗, 他                            | Radiation sensitivity of microorganisms adhering to the crude drug "Bezoar Bovis" and stability of its main components for $\gamma$ -ray irradiation                        | Bull. Univ. Osaka Pref., Ser. B, 46, 125 (1994) |
| 木村捷二郎, 遠藤 朗, 他                                     | 生薬原料「牛黄」のマイクロ波殺菌に関する基礎研究                                                                                                                                                    | 防菌防黴誌, 22, 329 (1994)                           |
| 有本正生, 松浦祥子,<br>室 親明, 辻坊 裕,<br>松村瑛子, 山口秀夫,<br>稲森善彦  | Inhibitory activity of podophyllotoxin and matairesinol-derivative lignans on the root growth of <i>Brassica campestris</i>                                                 | Biosci. Biotech. Biochem., 58, 189 (1994)       |
| 高橋千佳, 沼田 敦,<br>松村瑛子, 箕浦克彦,<br>江藤弘樹, 他              | Leptosins I and J, cytotoxic substances produced by a <i>Leptosphaeria</i> sp. Physico-chemical properties and structures                                                   | J. Antibiotics, 47, 1242 (1994)                 |
| 高橋千佳, 沼田 敦,<br>伊藤義典, 松村瑛子, 他                       | Leptosins, antitumor metabolites of a fungus isolated from a marine alga                                                                                                    | J. Chem. Soc. Perkin Trans., 1, 1859 (1994)     |
| 高橋千佳, 高田多美江,<br>山田剛司, 箕浦克彦,<br>松村瑛子, 沼田 敦, 他       | Halichomycin, a new class of potent cytotoxic macrolide produced by an actinomycete from a marine fish                                                                      | Tetrahedron Lett., 35, 5013 (1994)              |
| 栗原拓史, 坂本靖彦,<br>高井雅人, 塚本貴庸子,<br>酒井朋子, 春沢信哉,<br>米田龍司 | Meisenheimer rearrangement of azetopyridoindoles. V. Synthesis of 9-Methyl-12-carbaeudistomin and related compounds                                                         | Chem. Pharm. Bull., 42, 31 (1994)               |
| 栗原拓史, 坂本靖彦,<br>松本宏美, 川端夏来,<br>春沢信哉, 米田龍司           | Meisenheimer rearrangement of azetopyridoindoles. VI. Synthesis of 12-carbaeudistomin and related compounds                                                                 | Chem. Pharm. Bull., 42, 475 (1994)              |
| 春沢信哉, 森山英樹,<br>大石宏文, 米田龍司,<br>栗原拓史                 | Synthesis of strained 8-membered heterocyclic allenes by [3,3] sigmatropic rearrangement and their reactivity                                                               | Heterocycles, 38, 1975 (1994)                   |
| 春沢信哉, 加瀬尚毅,<br>米田龍司, 栗原拓史                          | Synthesis of medium-membered heterocyclic allenes by [3,3] sigmatropic rearrangement and its synthetic application to the antifungal constituent of <i>Sapium Japonicum</i> | Tetrahedron Lett., 35, 1255 (1994)              |
| 米田龍司, 坂本靖彦,<br>楠東愛史, 南佳代子,<br>春沢信哉, 栗原拓史           | A total synthesis of magallanesine via [1,2]-meisenheimer rearrangement                                                                                                     | Tetrahedron Lett., 35, 3749 (1994)              |
| 浦田秀仁, 浦田雅之,<br>赤木昌夫, 他                             | Spectroscopic characterization of the decadeoxynucleotide duplex modified with dichloroethylenediamineplatinum (II)                                                         | Nucleosides and Nucleotides, 13,1259 (1994)     |
| 草野源次郎, 伊堂寺真弓,<br>十河芳江, 芝野真喜雄,<br>草野昭子              | Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XIV. A new xyloside from the aerial parts of <i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk                                     | Chem. Pharm. Bull., 42, 1106 (1994)             |
| 草野昭子, 芝野真喜雄<br>北川 智, 草野源次郎                         | Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XV. Two new diglycosides from the aerial parts of <i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk                                | Chem. Pharm. Bull., 42, 1940 (1994)             |
| 草野源次郎, 他                                           | 仙台藩の医師「高屋家」に伝えられた薬箱について                                                                                                                                                     | 薬史学雑誌, 29, 484 (1994)                           |
| 馬場きみ江, 谷口雅彦,<br>小澤 貢, 他                            | Inhibition of human immunodeficiency virus type (HIV-1) replication by daphnodorins                                                                                         | Antiviral Res., 25, (1994)                      |

| 著 者                                       | 題 目                                                                                                                                                                                                    | 掲 載 誌                                                                 |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 馬場きみ江, 他                                  | Panaxynol, a polyacetylene compound isolated from oriental medicine, inhibits mammalian lipoxygenases                                                                                                  | Biochem. Pharmacol., 48, 1979 (1994)                                  |
| 馬場きみ江, 谷口雅彦, 小澤 貢, 他                      | Three new furocoumarins from <i>Nopterygium incisum</i> TING                                                                                                                                           | Chinese Chem. Lett., 5, 593 (1994)                                    |
| 馬場きみ江, 川西 博, 谷口雅彦, 小澤 貢                   | Chromone glucosides from <i>Cnidium japonicum</i>                                                                                                                                                      | Phytochemistry, 35, 221 (1994)                                        |
| 馬場きみ江, 木戸 正, 谷口雅彦, 小澤 貢                   | Stilbenoides from <i>Cassia garrettiana</i>                                                                                                                                                            | Phytochemistry, 36, 1509 (1994)                                       |
| 馬場きみ江, 谷口雅彦, 小澤 貢                         | Three biflavonoids from <i>Wikstroemia sikokiana</i>                                                                                                                                                   | Phytochemistry, 37, 879 (1994)                                        |
| 大蔵直樹, 井上晴嗣, 池田 潔, 他                       | Isolation and characterization of a phospholipase A <sub>2</sub> inhibitor from the blood plasma of the Thailand Cobra <i>Naja naja kaouthia</i>                                                       | Biochem. Biophys. Res. Commun., 200, 784 (1994)                       |
| 大蔵直樹, 井上晴嗣, 池田 潔, 他                       | The two subunits of a phospholipase A <sub>2</sub> inhibitor from the plasma of Thailand cobra having structural similarity to urokinase-type plasminogen activator receptor and KY-6 related proteins | Biochem. Biophys. Res. Commun., 204, 1212 (1994)                      |
| 藤井 忍, 谷 健, 羽田修二, 井上晴嗣, 池田 潔, 他            | Role of Ca <sup>2+</sup> in the binding of phospholipase A <sub>2</sub> with a monomeric substrate and with its amide-type analog                                                                      | J. Biochem., 116, 870 (1994)                                          |
| 保理江智, 井上晴嗣, 池田 潔, 他                       | Purification and amino acid sequence of nerve growth factor from <i>Crotalus adamanteus</i> venom                                                                                                      | J. Nat. Toxins, 3, 165 (1994)                                         |
| 佐久間覚, 藤本陽子, 土井健司, 永松新吾, 西田裕子, 藤田 直        | Existence of an enzymatic pathway furnishing arachidonic acid for prostaglandin synthesis from arachidonoyl CoA in rabbit kidney medulla                                                               | Biochem. Biophys. Res. Commun., 202, 1054 (1994)                      |
| 佐久間覚, 藤本陽子, 岩井美実, 藤本賢二郎, 安田麻貴, 西田裕子, 藤田 直 | Induction of the conversion of xanthine dehydrogenase to oxidase in rabbit liver by Cu <sup>2+</sup> , Zn <sup>2+</sup> and selenium ions                                                              | J. Pharm. Pharmacol., 46, 487 (1994)                                  |
| 佐久間覚, 藤本陽子, 宮田佳典, 山根久美, 西田裕子, 藤田 直        | Inhibition of 15-hydroxy prostaglandin dehydrogenase activity in rabbit gastric antral mucosa by 13-hydroperoxyoctadecadienoic acid                                                                    | Prostaglandins Leukotrienes and Essential Fatty Acids, 51, 425 (1994) |
| 藤田 直, 中島 正, 松間俊樹, 西田裕子, 佐久間覚, 藤本陽子        | Effect of 13-hydroperoxyoctadecadienoic acid on prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla microsomes                                                                                            | Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol., 83, 51 (1994)                  |
| 藤本陽子, 角森正英, 牟田恵美子, 西田裕子, 佐久間覚, 藤田 直, 他    | High density lipoprotein inhibits platelet 12-lipoxygenase activity                                                                                                                                    | Res. Commun. Mol. Pathol. Pharmacol., 85, 355 (1994)                  |
| 森本一洋, 他                                   | Transport of thyrotropin-releasing hormone across rat alveolar epithelial cell monolayers                                                                                                              | Life Sci., 54, 2083 (1994)                                            |
| 森本一洋, 他                                   | Effects of protease inhibitors on vasopressin transport across rat alveolar epithelial cell monolayers                                                                                                 | Pharm. Res., 11, 1617 (1994)                                          |

| 著 者                                                      | 題 目                                                                                                                                                                                                    | 掲 載 誌                                             |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 明星英俊, 岩永一範,<br>森本一洋, 掛見正郎, 他                             | 高純度不飽和脂肪酸による経皮吸収促進機構<br>—FT-ラマン分光法による評価—                                                                                                                                                               | セラピューティック リサーチ,<br>15, 3859 (1994)                |
| 久木一弘, 松村靖夫,<br>前川仁志, 藤田克哉,<br>高岡昌徳, 森本史郎                 | Conversion of Big ET-1 in the rat lung: role<br>of phosphoramidon-sensitive endothelin-1-<br>converting enzyme                                                                                         | Am. J. Physiol., 266, H422<br>(1994)              |
| 松村靖夫, 村田 聡,<br>高田貴美, 高岡昌徳,<br>森本史郎                       | Involvement of transforming growth factor-<br>$\beta$ 1 for platelets-induced stimulation of<br>endothelin-1 production                                                                                | Clin. Exp. Pharmacol.<br>Physiol., 21, 991 (1994) |
| 藤田克哉, 松村靖夫,<br>喜多紗斗美, 久木一弘,<br>高岡昌徳, 森本史郎                | Phosphoramidon-sensitive conversion of big<br>endothelin-1 and degradation of endothelin-1<br>in rat kidney                                                                                            | Hypertension 24, 227 (1994)                       |
| 江木康陽, 松村靖夫,<br>村田 聡, 梅川俊義,<br>久木一弘, 高岡昌徳,<br>森本史郎        | The effects of N <sup>G</sup> -nitro-L-arginine, a nitric<br>oxide synthase inhibitor, on norepinephrine<br>overflow and antidiuresis induced by stimula-<br>tion of renal nerves in anesthetized dogs | J. Pharmacol. Exp. Ther.,<br>269, 529 (1994)      |
| 梅川俊義, 松村靖夫,<br>吉村尚美, 村田 聡,<br>高田貴美, 塚原八重子,<br>高岡昌徳, 森本史郎 | Platelets-induced stimulation of endothelin-1<br>production and inhibition by phospho-<br>ramidon                                                                                                      | J. Pharmacol. Exp. Ther.,<br>269, 860 (1994)      |
| 久木一弘, 松村靖夫,<br>藤田克哉, 前川仁志,<br>高岡昌徳, 森本史郎                 | Differences in potency of big endothelin-1-<br>induced pressor action in rat isolated perfused<br>mesenteric artery, hindquarter and lung                                                              | Life Sci., 54, 275 (1994)                         |
| 藤田克哉, 松村靖夫,<br>喜多紗斗美, 久木一弘,<br>高岡昌徳, 森本史郎                | Intrarenal conversion of big endothelin-1 to<br>endothelin-1 in the rat                                                                                                                                | Life Sci., 55, 1285 (1994)                        |
| 保坂康弘, 黒田和道,<br>鶴岡浩志, 佐藤範和,<br>岩本 勉, 他                    | Immunoelectron microscopic study of<br>enhancement of MHC class I molecules on<br>murine cells deficient in endogenous antigen<br>presentation by interferon- $\gamma$ treatment.                      | ICEM 13, 349 (1994)                               |
| 稲森善彦, 室 親明,<br>船越裕一郎, 宇佐美吉英,<br>辻坊 裕, 沼田 敦               | Phytogrowth-inhibitory activities of 2-thio-<br>phenecarboxylic acid and its related com-<br>pounds                                                                                                    | Biol. Pharm. Bull., 17, 160<br>(1994)             |
| 稲森善彦, 室 親明,<br>山中弘美, 逢坂京子,<br>辻坊 裕, 他                    | Synthesis of methyl and ethyl 3-alkylthiazoli-<br>dine-4(R)-carboxylates and their roots inhibi-<br>tion of the growth of <i>Brassica campestris</i>                                                   | Biosci. Biotech. Biochem.,<br>58, 1150 (1994)     |
| 稲森善彦, 室 親明,<br>逢坂京子, 船越裕一郎,<br>宇佐美吉英, 辻坊 裕,<br>沼田 敦      | <i>Inhibitory activities of 3-thiophenecarboxylic<br/>acid and related compounds on plant growth</i>                                                                                                   | Biosci. Biotech. Biochem.,<br>58, 1336 (1994)     |
| 稲森善彦, 室 親明,<br>逢坂京子, 山中弘美,<br>宇佐美吉英, 辻坊 裕,<br>沼田 敦       | <i>Synthesis and plant growth-inhibitory activi-<br/>ty of methyl 3-(alkylthio) carbonylthiazoli-<br/>dine-4(R)-carboxylates</i>                                                                       | Biosci. Biotech. Biochem.,<br>58, 1875 (1994)     |
| 稲森善彦, 室 親明,<br>豊田麻里, 辻坊 裕, 他                             | Inhibitory activity of 5-thio-D-glucose on<br>plant growth                                                                                                                                             | Biosci. Biotech. Biochem.,<br>58, 1877 (1994)     |
| 辻坊 裕, 藤本和博,<br>丹野裕美, 宮本勝城,<br>稲森善彦, 他                    | Gene sequence, purification and characteriza-<br>tion of N-acetyl- $\beta$ -glucosaminidase from a<br>marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain<br>O-7                                           | Gene, 146, 111 (1994)                             |



| 著 者                                   | 題 目                                                                                                            | 掲 載 誌                                   |
|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 田中麗子, 溝田智史,<br>松永春洋                   | Saturated gammaceranes from the stem bark of <i>Abies mariesii</i> .                                           | J. Nat. Prod., 57, 761 (1994)           |
| 田中麗子, 尹 康子,<br>石田寿昌, 松永春洋             | 11 $\beta$ -Hydroxy-D:A-friedoolean-1-en-3-one from the stem bark of <i>Phyllanthus flexuosus</i> .            | J. Nat. Prod., 57, 1523 (1994)          |
| 田中麗子, 文 貞姫,<br>宇佐美吉英, 松永春洋            | 3-Oxo-serratene triterpenoids from the stem bark of <i>Picea jezoensis</i> Carr.                               | Phytochemistry, 35, 1517 (1994)         |
| 田中麗子, 井田智子,<br>高岡義和, 喜多俊二,<br>松永春洋, 他 | 3,4-Seco-oleana-4(23), 18-dien-3-oic acid and other triterpene constituents from <i>Euphorbia chamaesyce</i> . | Phytochemistry, 36, 129 (1994)          |
| 田中麗子, 壺井理恵,<br>松永春洋                   | Serratenes from the stem bark of <i>Picea jezoensis</i> Carr. <i>hondoensis</i>                                | Phytochemistry, 37, 209 (1994)          |
| 碓井信二                                  | Eine literarische Höllenfahrt durch die Kultur der Weimarer Zeit ( I )                                         | ばいであ, 18, 75 (1994)                     |
| 阿部 功                                  | 大阪都市経済圏再編の基本方向                                                                                                 | 「提言集—大阪経済振興のための中期重点課題」(大阪市経済局)          |
| 阿部 功                                  | 環境管理・監査の市場経済学                                                                                                  | 「RECSYS—『資源創造社会』を目指して」(資源リサイクルシステムセンター) |
| 松島哲久                                  | 日本のターミナル・ケアにおける生と死                                                                                             | セミナー医療と社会, 6, 46 (1994)                 |
| 楠瀬健昭                                  | How much interest do students have in English ?                                                                | Salon Yearly, 5, 30 (1994)              |
| 楠瀬健昭                                  | 情念と理性 —混乱するコニー—                                                                                                | とい, XIV, 33 (1994)                      |
| 楠瀬健昭                                  | Changing aspects of male-female relationships (II)                                                             | ばいであ, 18, 81 (1994)                     |
| 当麻成人, 望月伸三郎, 他                        | プロ野球選手における脚筋パワーと30m塁間モデル走の関係                                                                                   | 大阪薬科大学教養論業・ばいであ, 19, 55 (1994)          |

## 2. 総説・解説

| 著 者                       | 題 目                                                                                                                | 書名または掲載誌 (出版社)                                                                                 |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 石田寿昌                      | 生理活性物質のコンフォメーションと活性の相関                                                                                             | 日本結晶学会誌, 36, 276, (1994)                                                                       |
| 藤田芳一                      | 色素とタンパク質の結合様式は解明されてきているか?                                                                                          | ファルマシア, 30, 632 (1994)                                                                         |
| 藤田芳一                      | ポリフィリン超分子の分子設計と構築                                                                                                  | ぶんせき, 1994, 944 (1994)                                                                         |
| 千熊正彦, 他                   | 環境水中のセレンの分析法                                                                                                       | ぶんせき, 912, (1994)                                                                              |
| 齊藤睦弘                      | 光学活性体の生体内異性化                                                                                                       | ぶんせき, 999, (1994)                                                                              |
| 草野源次郎, 芝野真喜雄              | 甘草屋敷のカンゾウ復活の試み                                                                                                     | F.F.I. J. Jpn., 161, 73 (1994)                                                                 |
| 馬場きみ江, 他                  | 養命野菜<アシタバ>                                                                                                         | 安心, 1, 264, (1994)                                                                             |
| 藤本陽子, 佐久間覚,<br>西田裕子, 藤田 直 | Effects of reactive oxygen species on cyclooxygenase and lipoxygenase metabolism of arachidonic acid in platelets. | Frontiers of reactive oxygen species in biology and medicine, Elsevier Science B.V. 187 (1994) |

| 著者                     | 題目                                              | 掲載誌                                                       |
|------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 森本一洋                   | ペプチドの投与方法とファーマコダイナミクス                           | 生命とくすり, 10, 2 (1994)                                      |
| 松村靖夫, 森本史郎             | エンドセリン遺伝子発現調節とエンドセリン生合成経路                       | 医学のあゆみ, 170, 369, (1994)                                  |
| 玄番宗一                   | 薬物性腎障害とラジカル                                     | 腎と透析, 36, 49 (1994)                                       |
| 米花 務, 玄番宗一             | 培養腎上皮細胞 LLC-PK <sub>1</sub> における低酸素・再酸素化による細胞障害 | 腎とフリーラジカル, 2, 139 (1994)                                  |
| 河合悦子, 玄番宗一             | 鉄キレート剤デフェロキサミンによるシスプラチンの腎皮質切片での過酸化脂質増大の抑制効果     | 腎とフリーラジカル, 2, 169 (1994)                                  |
| 玄番宗一, 朝倉賢治             | ラット虚血腎から調整した試料のインビトロ酸化による過酸化脂質の増大               | 腎とフリーラジカル, 2, 182 (1994)                                  |
| 玄番宗一                   | 降圧薬と昇圧薬                                         | 薬局, 45, 209 (1994)                                        |
| 玄番宗一                   | 薬剤性腎障害                                          | 臨床泌尿器科, 48, 721 (1994)                                    |
| 保坂康弘                   | No royal road in electron microscopy            | 電子顕微鏡, 29, 73 (1994)                                      |
| 田中麗子, 仙波晴美, 大森浩次, 松永春洋 | エゾマツ樹皮の含有するトリテルペノイド成分の研究                        | 第38回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会講演要旨集, 228 (1994)                |
| 松永春洋                   | トリテルペノイド及びそれを含有する発癌プロモーター抑制剤                    | 日本国特許庁 (12) 公開特許公報 (A), 特許出願公開番号: 特開平 6-72887, 455 (1994) |
| 阿部 功                   | 関西空港とポスト 3 大プロジェクト                              | 関西交通経済研究センター, 82, (1994)                                  |

### 3. 著書

| 著者        | 書名                                                                             | 出版社          |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 大桃善朗, 他   | 薬剤師国家試験例題+ポイント衛生化学・公衆衛生学, 第15章 放射線                                             | 廣川書店 (1994)  |
| 草野源次郎, 他  | 薬草                                                                             | 家の光協会 (1994) |
| 草野源次郎, 他  | 総合食品安全事典 きのご毒                                                                  | 産業調査会 (1994) |
| 掛見正郎, 他   | 医療薬学第2版 薬物治療管理 (TDM)                                                           | 廣川書店 (1994)  |
| 掛見正郎, 他   | 常用医薬品情報集 河島他編                                                                  | 廣川書店 (1994)  |
| 掛見正郎, 他   | 生物薬剤学 例題+ポイント薬剤学 河島進編                                                          | 廣川書店 (1994)  |
| 中元安雄      | 例題+ポイント 日本薬局方                                                                  | 廣川書店 (1994)  |
| 坂田勝治, 他   | リーダーズ・プラス: An encyclopedic supplement to the dictionary for the general reader | 研究社 (1994)   |
| 阿部 功 (共著) | 五全総へー関西からのメッセージ 「グローバル社会における関西像」                                               | 学芸出版社 (1994) |
| 松島哲久      | 環境思想を学ぶ人のために 加茂直樹・谷本光男編 「エコロジズムと環境倫理」                                          | 世界思想社 (1994) |



## 親和会だより

### 志摩スペイン村への旅

今年、阪神大震災、本学の移転、学長の任期満了などいろいろなことが起こりましたが、幹事の友尾君、辻さん、高田さんと共に3月11～12日に春の恒例旅行を敢行することができました。昨年の10月頃から計画して参りましたスペイン村旅行は、時期的に震災直後になり、当初の80名近い参加予定者から約40名にまで減ってしまい幹事としては複雑な心境でありました。しかし、今思うとサリン事件の前で本当に良かったと思います。

今回の旅行を振り返りますと、春の最も大学行事が集中する時期よりも夏ごろの方が、会員の方の都合も旅行日程にも余裕があったのではなかったかと思えます。また、親和会に対する大学補助が無くなったことから、今年も実施させて頂きましたが、今後旅行では旅費の一部を参加者にご負担いただくざるをえないのではないかと考えます。会員の中には毎月会費を払って、その上にさらに旅費を取ることはご異論もあるかと存じますが、その分、旅行以外の親和会の行事を行っても良いのではなかと思えます。例えば、法人としての忘年会が中止されたこと



に代わり、昨年年末に親和会として都ホテルにて忘年会を開催しましたが、この様な小さな行事を年2回程度催してはと提言いたします。

また、震災のおかげで親和会とは何かについて幹事一同考える機会がありました。むろん職員の親睦をはかることが大きな目的ですが、大学の職員・学生が大きな災害を被ったとき、組合や他の機関との強調の上で必要に応じた援助などもひとつの活動方法であると考えます。2月2日には震災の被災者の援助を目的として会員の皆様のご意見を聞く機会を持ちました。いろいろなお考えを拝聴した上で、職員・学生の両方を援助する目的でそれぞれ20万円づつ、親和会の予算の中から、組合と法人に寄付させて頂きました。紙面にて恐縮ですが会員の皆様には改めて御礼申し上げます。(助教授 土井光暢 記)

# 葦

編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-65

TEL 0723 (32) 1015 (代表)

FAX 0723 (32) 9929